

福 岡 大 学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年 報

令和 3 年度 (2021)

F.U.

Sports and Health Science

福岡大学スポーツ科学部

第 7 号

福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年報

令和三年度（2021）

福岡大学スポーツ科学部

第7号

目次

挨拶	1
活動内容	
1 学部および研究科の三つのポリシー	
(1) スポーツ科学部	4
(2) スポーツ健康科学研究科	8
2 活動年譜	10
3 教員組織および担当者	12
4 入試状況、学生数および卒業生数、出張講義	
(1) スポーツ科学部	15
(2) スポーツ健康科学研究科	18
5 教育活動	
(1) 入学前教育	19
(2) 新入生懇談会	19
(3) クラス面談・修学指導	20
(4) フレッシュマンセミナー授業方法	22
(5) ステップアップセミナー授業方法	26
(6) 授業形式と授業用ツール活用について	28
6 研究活動	
(1) スポーツ科学部	32
(2) スポーツ健康科学研究科	33
7 FD・SD 活動	
(1) シラバス点検	34
(2) 学外研修参加	34
(3) ワークショップ、研修会の開催	35
(4) 授業アンケート	37

8	スポーツ振興・地域連携・社会貢献、 高大連携	39 42
9	国際交流	44
10	教職課程	45
11	就職・進路	
	(1) スポーツ科学部	47
	(2) スポーツ健康科学研究科	48
12	広報推進	49
13	外部獲得資金実績	51
14	リスクマネジメント委員会	53
15	関連資料一覧	56

学部・研究科のさらなる前進へ

スポーツ科学部長 米沢 利広
スポーツ健康科学研究科長 上原 吉就

スポーツ科学部とスポーツ健康科学研究科では、2015年度版から学部と研究科の年間活動を総括し、記録に残すとともに学内外にその成果を公表する目的で、2016年秋に「スポーツ科学部・スポーツ健康科学研究科年報」を創刊しました。本年報は、2021年度版（第7号）になります。学部・研究科教員の研究活動（研究業績）と社会活動、競技・指導活動は「スポーツ科学研究（大学研究紀要）」に、また現在学部として取り組んでいる教育プログラムの「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と「ココロとカラダのウェルネスプログラム」は別冊あるいはスポーツ科学部ホームページ上の電子ファイルとして詳細を掲載していますので、本年報（第7号）はこれら以外の内容になります。具体的には、目次をご覧ください。

スポーツ科学部は、1969年（昭和44年）体育学部体育学科として学生定員100名で創設されました。その後、学生定員増（臨時定員増を含め）を何度か経て現在の学生定員295名となっています。1998年（平成10年）スポーツ科学部への名称変更とともにスポーツ科学科と健康運動科学科の2学科へ改組転換し現在に至っています。2019年（平成31年＝令和元年）には、学部創設50周年を迎え、盛大に記念式典を行いました。2022年（令和4年）3月277名の卒業生を加えて総数12,221名を輩出しています。

スポーツ健康科学研究科は、1990年（平成2年）体育学研究科体育学専攻修士課程として6専修部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、健康運動学）を創設しました。2003年（平成15年）にスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称し、現在6部門13専修となっています。また、2004年（平成16年）にはスポーツ健康科学専攻博士課程を2部門（健康運動科学、スポーツトレーニング科学）増設しました。したがって、修士課程（博士課程前期）は昨年度（令和2年度）に創設30周年を迎えました。2022年（令和4年）3月では、14名の修了生を加えて総数466名の修了生（修士課程420名、満期退学者を含む博士課程46名）を輩出しています。博士の学位に関しては、2021年度に2名が新たに取得し19名の課程博士と2名の論文博士を輩出しています。

2013年（平成25年）12月から学部役職員の変更に伴う新体制がスタートし、“**学部の魅力づくり**”をテーマに、“**FUSS アクティブプラン（福岡大学スポーツ科学部推進計画）**”の名称で取り組んでいます。スポーツ・健康運動に関する分野において社会を先導する高い専門性と気概を持った人材の育成（教育面）に加えて、これを実現できる教育環境づくり（教育組織、FD・SD）、並びに教育や社会に資する研究環境の整備（研究面）を推進し、さらに近未来に向かって学部が独自に取り組む特別プロジェクトを推進することで、“**学部の魅力づくり**”の向上を目標としています。

2021年度（令和3年度）においても「新型コロナウイルス」感染症の影響で、入学式は2部制で簡素化されて行われました。福岡県による緊急事態宣言及びまんえん防止等措置期間の発令を

受けて学部懇談会をはじめ学部祭、謝恩会など多くの行事が中止になりました。授業においても前期授業期間は、対面授業からリモートによる遠隔授業となり、定期試験も実施されませんでした。後期においても緊急事態宣言が延長され、前半はリモートによる授業となりました。後半は対面授業を実施することができ、定期試験も実施されました。しかし、スキー実習やスケート実習は中止となり、卒論発表会はリモートによる発表となりました。このような状況の中では、**FUSS アクティブプラン**を中心とした学部のさまざまな取り組みは、停滞することになってしまったことは大変残念です。このような状況でも教職員の努力により次のような活動が行われました。

- 1 高大連携及び附属高校委員会では、出張講義におけるオンラインオープンキャンパスを実施しました。また、附属若葉高校とは、サッカー部、ハンドボール部及び水泳部で強化の連携が行われています。
- 2 スポーツ振興・地域連携・社会貢献推進委員会では、ミズノ株式会社との連携協定により、1件の受託研究が行われ、ピークパフォーマンス演習への講師派遣およびオープンキャンパスへの特別講師の派遣も行われました。UNIVAS Awards の表彰では、2年次の「ステップアップセミナー」が最優秀取組賞を受賞するなど、個人と団体で8部門が表彰されました。今後は、「**福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム**」として大学全体の機関で活動を継続・発展させていくこととなります。
- 3 広報委員会では、年報、エキスパートの報告書などを電子冊子として掲載をしました。オンラインキャンパスを実施すると共に、スポーツ科学部紹介動画を作成し、HPに掲載しました。また、昨年に引き続きタペストリーを作成し、第二記念会堂に掲示しました。
- 4 教員合格率向上委員会では、9名（小学校2名を含む）の合格者を出し、年々増加の傾向にあります。
- 5 共通教育対策委員会では、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、電子テキストを作成し、リモートによる授業にも対応してきました。
- 6 診療所・トレーナー活動推進委員会では、昨年に引き続き医療安全に関する UNIVAS AWARD で2年連続優秀賞を受賞しました。
- 7 学部教育充実推進委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響で、一部のプログラムが実施されなかったものの、「**体育・スポーツのエキスパート育成プログラム**」では、例年と同様の成果を収めています。

また、大学院スポーツ健康科学研究科においては、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、2021年度も9回目を迎える予定であった釜山大学との大学院国際学術交流は中止となりました。しかし、2020年度から新たに立ち上げたスポーツ健康科学研究科ホームページに2021年度には、よりビジュアルに訴えかけた紹介動画を新たに作成し、大学院における活動状況を学内外に精力的に発信しています。

2021年度にはマラ工科大学との部局間協定のセレモニーを行い、正式に部局間協定を締結した。したがって、2022年4月1日から福岡大学とマラ工科大学との部局間協定が開始となり、学生および教員レベルで積極的に相互交流を進めていきたい。

「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため、2022年3月19日の卒業式は本人のみの参席に限定されましたが全学部揃っての式典となり、スポーツ科学部に関しては例年通り第二記念会堂で

学位記授与式を実施しました。また、大学院スポーツ健康科学研究科においては、2022年3月17日に博士過程後期の2名大学院生がヘリオスプラザで博士の学位授与が行われ、博士過程前期の大学院生は2022年3月19日に1222教室において修士の学位記授与が行われました。

一方、人事に関して、講師以上の採用はありませんが、新助教4名、新助手6名を含めて、専任教員（講師以上）31名、特任教授1名、助教・助手26名、教育技術職員4名・事務職員7名の総勢69名で学生教育に取り組んでいます。また、令和4年度からは、事務組織が改編され、スポーツ科学部を含む理系4学部（理学部、工学部、薬学学部）は、教務三課の所属になる予定です。2022年度（令和4年度）から、スポーツ科学部事務室もスリム化される予定ですが、学生教育や学生サービスに停滞がないように努力していきます。

本学では、1996年（平成8年）から大学基準協会の「大学評価マニュアル」に基づき、自己点検・評価を開始しました。その後、自己点検・評価の実施と結果公表の義務化に伴い2000年度（平成12年度）に第2回目の自己点検・評価を行いました。2004年（平成16年）からは第三者機関（認証評価機関）による認証評価を7年に1回受けることが義務付けられ、本学では2007年度（平成19年度）に第3回目、2014年度（平成26年度）に第4回目の自己点検・評価を行い、翌年“大学基準協会に適合”との認証評価を受けました。2015年度（平成27年度）からは毎年自己点検・評価を行うことになり、2022年度（令和4年度）の第5回認証評価に向け、本年報が学部基礎データ調書資料としても活用されています。

1 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー

(1) スポーツ科学部

●人材養成の目的

スポーツ科学部は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

○アドミッション・ポリシー

スポーツ科学部は人材養成の目的を達成するために、

1. スポーツを日常的に実践している人
2. スポーツや身体運動を対象に積極的に科学しようとする人
3. 競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上を目指す人
4. 体育教員、スポーツコーチ、インストラクター、健康運動指導士などスポーツや健康全般にかかわる職種を目指そうとする人

の入学を求めています。

○カリキュラム・ポリシー

スポーツ科学部のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む推奨コースを設定しています。さらに、実技科目や演習科目は、理論と実践を統合した教育を体系的に行うために、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。

スポーツ科学科は、自らが専門とするスポーツ種目の技能およびスポーツ全般にわたる科学的指導能力の向上を、また健康運動科学科は、健康運動・レクリエーションの科学的基礎知識に基づく実践・指導能力の習得をそれぞれねらいとし、各学科の特性にあったカリキュラムを編成しています。

○ディプロマ・ポリシー

スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. スポーツや運動全般の科学的指導能力を備えている。
2. 専門とするスポーツ・運動の高い技能と指導能力を備えている。
3. スポーツ・運動の医科学的知識に基づく卒業論文作成能力を備えている。
4. スポーツ・運動を通じて得られた社会や職業活動に必要なコミュニケーション能力、課題解決力、倫理的思考力を備えている。
5. 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を身につけている。

■ スポーツ科学科 学位（教育）プログラム名：スポーツ科学

●人材養成の目的

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

スポーツ科学科 三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

◆養成する人材像・教育課程の特色

スポーツ科学科は、競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、スポーツ・運動に関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。自身の競技力向上とアスリートやコーチを目指すためのアスリート・コーチコース、アスリートのサポートを担うためのトレーナーコース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応したスポーツ科学の在り方を探求しています。

◆求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

◆入学選抜のねらい

スポーツ科学科では、競技スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、競技力向上を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって、学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができる

ように、一部選抜制を含む 4 つの推奨コース（アスリート・コーチコース、トレーナーコース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群およびコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

スポーツ・運動の理論と実践を統合した教育を体系的に行うため、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。実技科目については、自らが専門とするスポーツ種目を学べるように、選択必修の実技科目を多く配置しています。そして、「スポーツ実習Ⅱ」や「コーチ法演習」などの科目では、専門とするスポーツ種目のコーチング理論を深めるとともに、リーダーシップ・コミュニケーション能力および倫理的思考力の育成も行っています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 スポーツ・運動の医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 専門とするスポーツの技術構造について理解し、説明できる。
- A-3 専門とするスポーツの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 専門とするスポーツの技術を習得し、競技等の場面において発揮することができる。
- B-2 専門とするスポーツの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 スポーツ・運動を通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 スポーツ・運動を通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 スポーツ科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 スポーツ・運動について自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 スポーツ・運動を論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 スポーツ・運動を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 スポーツ・運動についてマネジメント等に取り組む意欲を持っている

■ 健康運動科学科 学位（教育）プログラム名：健康運動科学

●人材養成の目的

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

❖養成する人材像・教育課程の特色

健康運動科学科は、心身の健康の回復や保持増進を目指した医科学分野の知識を有し、創造的・実践的な指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、健康運動・レクリエーションに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した3つのコースを用意しています。健康運動関連資格取得を目指す健康運動指導者コース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応した健康運動科学の在り方を探求しています。

❖求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 生涯スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 生涯スポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

❖入学者選抜のねらい

健康運動科学科では、生涯スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、健康の回復や保持増進を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む3つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 健康運動・レクリエーションの医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 健康運動・レクリエーションの技術について理解し、説明できる。
- A-3 健康運動・レクリエーションの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 健康運動・レクリエーションの技術を習得し、運動指導等の場面において発揮することができる。
- B-2 健康運動・レクリエーションの技術や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 健康運動・レクリエーションを通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 健康運動・レクリエーションを通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 健康運動科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 健康運動・レクリエーションについて、自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 健康運動・レクリエーションを論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 健康運動・レクリエーションの技術を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 健康運動・レクリエーションについてマネジメント等に取り組む意欲を持っている。

(2) スポーツ健康科学研究科

●人材養成目的及びその他教育研究上の目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象とする学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に向けて貢献し、高度なスポーツ知を拓く研究科として機能することを教育理念とする。

博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基に、体育・スポーツ・健康・レクリエーションに関する科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行う。

博士課程後期では、健康増進や疾病・傷害の治療・予防・再発防止を目的とした運動プログラムの開発・実践に関する研究や、幼少期から高齢期に至るライフステージに応じたスポーツパフォーマンスの向上を目的とした研究などの専門的な領域について自立して研究活動を行い得る研究者を養成する。

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

本研究科は、博士課程前期では、指導現場において科学的指導を実践・応用できる人材を育成するという観点から、

- 1) スポーツや運動を科学的観点から研究することに興味のある人
- 2) 競技スポーツにおいてパフォーマンスを向上させる科学的方法に興味のある人
- 3) 教育の現場でより高度な科学的成果を取り入れようとしている人
- 4) 医療現場で運動により健康の維持や疾病の予防しようとする人

の入学を求めている。また、博士課程後期では、高等教育機関あるいは研究機関において独立して研究できる人材を育成するという観点から、

- 1) 基礎的な学力を有し、創造的で柔軟な発想を持ち、研究を遂行することができる人
- 2) 博士課程前期では十分な研究成果を得られず、研究を継続することを望む人
- 3) 医療や健康増進に強い熱意がある人
- 4) 広く自分の研究成果を国外にも発信したい人
- 5) スポーツ・体育分野の出身者以外にもスポーツや健康を科学的に研究することに興味のある人の入学を求めている。

そのため、体育、体育・スポーツ科学関連学部の卒業生のみならず、広範囲からの領域の学生の受け入れを目指している。特に、社会人や外国人は積極的に受け入れる。

○カリキュラム・ポリシー

博士課程前期では、各自の専門性を高めるために、各部門ごとに「特別研究」と「特講」などの専修科目を設置し、同時に、関連する領域の知識の獲得を意図した非専修科目を配置している。特に、スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目が用意されている。さらに、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目は部門の枠を越えて幅広い知識の獲得を目指している。

博士課程後期では、博士論文指導を目的とした「特別研究」以外にも、全論文指導教員および論文指導補助教員によるオムニバス形式の科目を配置し、基本的なリサーチメソッドの獲得に資している。

○ディプロマ・ポリシー

博士課程前期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

- (1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に修士論文としてまとめる能力。
- (2) 修士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力。
- (3) スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する能力。

博士課程後期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

- (1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に博士論文としてまとめる能力。
- (2) 博士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力。
- (3) スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力。

2 2021年度 活動年譜

2021年		【学部】	【研究科】	
4月	1日	入学式	入学式・新入生ガイダンス	
	2日	新入生ガイダンス		
	6日	新入生懇談会		
		初回クラス面談 (1年次)		
	12日	前期授業開始		前期授業開始
5~6月		前期修学指導		
	10~21日	前期クラス面談 (2年次)		
6~7月	(中止)	父母懇談会 (本学・各地)		
6月	2~8月4日	ゴルフ実習		
	28~7月9日	前期クラス面談 (1年次)		
7月	下旬~	前期授業アンケート	修論中間報告会 前期授業終了	
	22日	前期授業終了		
	23~8月1日	前期定期試験		
	30日			
8月	3~7日	集中講義 (前)	修論中間報告会 オープンキャンパス	
	4日	夏季休業開始		
	7日 (遠隔)			
	3~6日	キャンプ実習 (II)		
	7日 (遠隔)	オープンキャンパス		
	23~26日 (遠隔)	キャンプ実習 (前段)		
9月	1日		秋季大学院入試	
	6~9日 (遠隔)	キャンプ実習 (後段)	後期授業開始 学位記授与式 (修士)	
	6~9日 (学内)	アクアスポーツ実習		
	6~10日	集中講義 (後)		
	13日	夏季休業終了		
	14日	後期授業開始		
	22日	後期クラス面談 (1年次)		
	25日	前期卒業式		
	27~10月8日	後期クラス面談 (2年次)		
	9月	29日		総合型選抜一次選考
10月	12日	総合型選抜二次選考		

11月	25～28日	学校推薦型選抜A方式入試	
12月	11日(中止)	ステップアッププログラム	
	(中止)	先輩と語るー大学と社会ー	
	下旬～	学部祭	
	27日	後期授業アンケート	
		冬季休業開始	冬季休業開始

2022年		【学部】	【研究科】
1月	4日	冬季休業終了	冬季休業終了
	5日	後期授業再開	後期授業再開
	17日	後期授業終了	
	14日(遠隔)	FDワークショップ	
	15・16日	共通テスト	
	24日		後期授業終了
	18～28日	後期定期試験	
	28日(ハイブリッド)	卒業論文発表会	
	(中止)	謝恩会	
	28～30日	時間割編成会議	
	2月8・9・10日(中止)	スケート実習	
30～2月3日(中止)	スキー実習(前段)		
	31～2月3日(遠隔)	キャンプ実習(スキー実習代替)	
2月	2日～	一般入試・系統別	
	3日～	一般入試・前期日程	
	7日～	一般入試・GS実技	
	7日	シラバスチェック	
	9日(ハイブリッド)		修士論文発表会・公聴会
	14～18日(中止)	スキー実習(後段)	
	14～17日(遠隔)	キャンプ実習(スキー実習代替)	
	18日		春季大学院入試
3月	5日	一般入試・後期日程	
	17日		学位記授与式(博士)
	19日	卒業式	卒業式・学位記授与式(修士)
		授業アンケート報告	
	22日	在学生履修登録開始	
	25日		在学生履修登録開始
	29日	在学生履修登録終了	
	30日		在学生履修登録終了

3 教員組織 (2021年度)

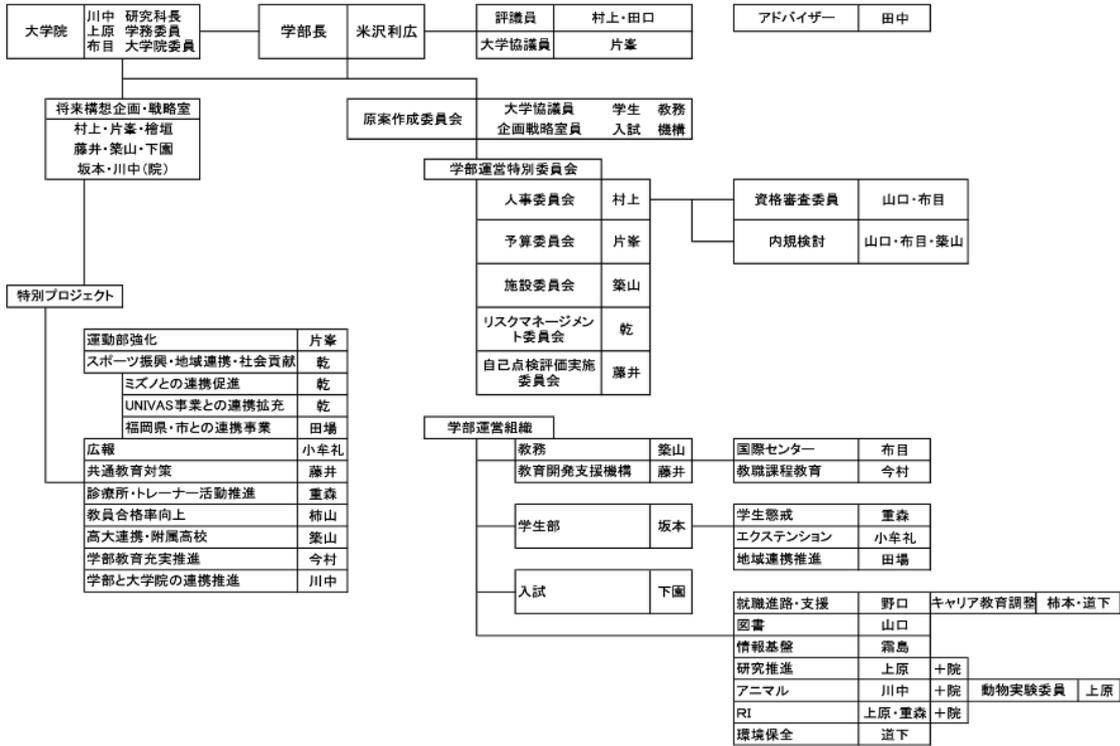
スポーツ科学部長 米 沢 利 広		
教 授	青 柳 領	(幼児発育発達・スポーツ計量論)
	乾 真 寛	(コーチ学・サッカー)
	岩 本 英 明	(スポーツ整形外科・スポーツ医学)
	上 原 吉 就	(スポーツ内科学・スポーツ医学・予防医学)
	柿 本 真 弓	(コーチ学・ダンス・体操・新体操競技)
	柿 山 哲 治	(スポーツ教育学・保健体育科教育学)
	片 峯 隆	(コーチ学・運動学・バイオメカニクス・陸上競技)
	川 中 健太郎	(スポーツ栄養学・生化学・分子運動栄養学)
	小牟礼 育 夫	(スポーツ方法学・バスケットボール)
	重 森 裕	(脳神経外科学・救急医学) *2021年10月昇格
	下 園 博 信	(スポーツ心理学・スポーツ方法学・ラグビー)
	田 口 晴 康	(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
	田 中 守	(体力学・トレーニング学・生理学・ハンドボール)
	築 山 泰 典	(野外教育学・レクリエーション)
	中 原 一	(スポーツ方法学・柔道)
	布 目 寛 幸	(バイオメカニクス)
	檜 垣 靖 樹	(スポーツ生理学・健康運動学・予防医学)
	藤 井 雅 人	(スポーツ社会学・スポーツ教育学)
	村 上 純	(スポーツ方法学・コーチ学・ラグビー)
	森 口 哲 史	(公衆衛生学・鍼灸医学・ハンドボール)
	山 口 幸 生	(運動心理学・行動科学・テニス)
	米 沢 利 広	(スポーツ方法学・バレーボール)
特任 教授	梅 田 保 人	(保健体育科教育学)
准 教 授	今 村 律 子	(保健体育科教育学・コミュニケーション論)
	坂 本 道 人	(コーチ学・柔道)
	田 場 昭一郎	(コーチ学・競泳)
	長 島 和 幸	(体育哲学・スポーツ史・レスリング)
	野 口 安 忠	(コーチ学・スポーツ方法学・陸上競技)
	信 岡 沙希重	(コーチ学・陸上競技)
	道 下 竜 馬	(スポーツ生理学・健康運動学)
講 師	霜 島 広 樹	(スポーツ経営管理学・スポーツ産業論)
	渡 邊 正 和	(バイオメカニクス・コーチ学・硬式野球)

助 教	伊 藤 奨	助 手	大 関 采
	岩 崎 領		金 川 悠 太
	大 坪 俊 矢		神 田 菜 摘
	川 上 翔太郎		黒 石 武
	木 戸 康 平		座 波 吉 子
	木 浪 龍太郎		城 間 春 香
	古 瀬 裕次郎		谷 藤 和
	佐 野 智 樹		築 城 康 拓
	(2021年9月退職)		前 川 省 吾
	高 柳 昂 平		宮 田 卓 哉
	長 嶺 健		村 山 仁 允
	西 田 智		
	福 嶋 洋		
	松 永 真 季		
	村 川 誠		
	山 本 泰 暉		

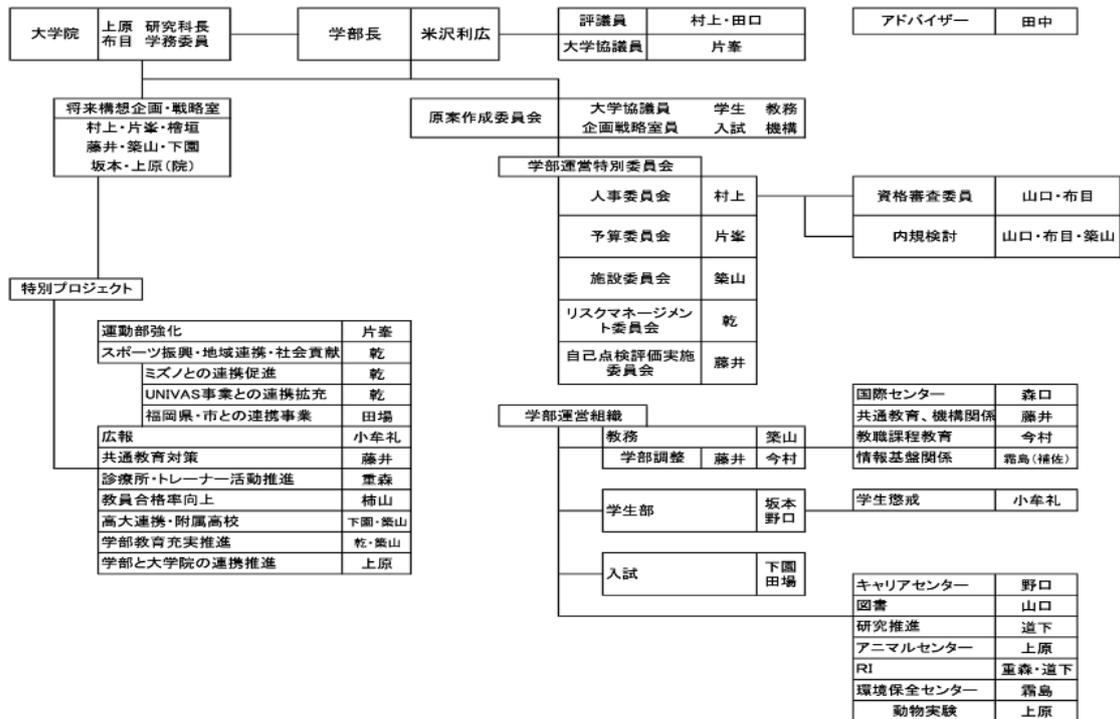
大学院スポーツ健康科学研究科 担当教員 (2021年度)

スポーツ健康科学研究科長 上 原 吉 就			
教 授	青 柳 領	教 授	檜 垣 靖 樹
	岩 本 英 明		藤 井 雅 人
	上 原 吉 就		森 口 哲 史
	柿 山 哲 治		山 口 幸 生
	川 中 健太郎	准 教 授	今 村 律 子
	重 森 裕		道 下 竜 馬
	下 園 博 信	講 師	霜 島 広 樹
	田 口 晴 康	助 教	木 戸 康 平
	田 中 守		古 瀬 裕次郎
	築 山 泰 典		
	布 目 寛 幸		

スポーツ科学部教員組織図(2021.4-2021.11.30)



スポーツ科学部教員組織図(2021.12.1-2022.3.31)



4 入試状況、学生数及び卒業生数、出張講義

(1) スポーツ科学部

下園 博信

■ 推薦入試

A方式推薦入試（実技型・学力型）に関し、スポーツ科学科では、募集人員が59名で、実技型の志願者は107名、合格者が59名(競争率1.8倍)であった。学力型の志願者は24名で、合格者4名(競争率6.0倍)であった。また、健康運動科学科では、募集人員20名に対し、実技型の志願者は17名で合格者16名(競争率1.4倍)であった。学力型の志願者は20名で、合格者6名(競争率3.3倍)であった。両学科の競争率は実技型で1.8倍と1.4倍であり、募集人員の少ない健康運動科学科において第2志望合格を継続実施している。

次に、アスリート特別選抜入試に関しスポーツ科学科では、志願者46名に対し合格者45名(競争率1.0倍)、健康運動科学科では志願者5名に対し合格者5名(競争率1.0倍)、合計50名の合格者であった。アスリート特別選抜入試は、全学として88名の出願に対し83名の合格者であり、合格者に占める本学部への合格者の占める割合は60.2%であった。

推薦入試状況

学科	A方式推薦入試（実技型/学力型）					スポーツ特別推薦入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	募集人員	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	59	107/24	107/24	59/4	1.8/6.0	50程度	46	45	1.0
健康運動科	20	17/20	17/20	16*/6	1.4/3.3		5	5	1.0

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）、（アスリート特別選抜入試は志願者÷合格者）*欄は第二志望合格者(4人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 総合型選抜入試

スポーツ科学科に関しては、募集人員29名に対し、志願者115名で合格者29名(競争率4.0倍)であった。また、健康運動科学科に関しては、募集人員5名に対し、志願者10名で合格者4名(競争率5.0倍)であった。また、健康運動科学科では第二志望合格2名を含むためスポーツ科学科に近い競争率となった。

学科	募集人員	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	32	118	31	3.8
健康運動科	5	15	*6	7.5
合計	37	133	37	-

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）*欄は第二志望合格者(5人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 一般入試

系統別日程では、スポーツ科学科が、募集人員6名に対し、受験者104名で合格者29名(競争

率 3.6 倍)であった。また、健康運動科学科は、募集人員 3 名に対し、受験者 94 名で合格者 25 名(競争率 3.8 倍)であった。

前期日程では、スポーツ科学科は募集人員 55 名に対し、実技型においては受験者 185 名で合格者 64 名(競争率 3.1 倍)、小論文型においては受験者 62 名で合格者 24 名(競争率 2.6 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 20 名に対し、受験者 131 名で合格者 42 名(競争率 3.1 倍)であった。

後期日程では、スポーツ科学科が募集人員 5 名に対し、受験者 17 名で合格者 6 名(競争率 2.8 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 2 名に対し、受験者 22 名で合格者 4 名(競争率 5.5 倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅰ期では、スポーツ科学科が募集人員 7 名に対し、受験者 68 名で合格者 23 名(競争率 3.0 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 62 名で合格者 20 名(競争率 3.1 倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅱ期では、スポーツ科学科が募集人員 5 名に対し、受験者 43 名で合格者 13 名(競争率 3.3 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 41 名で合格者 9 名(競争率 4.6 倍)であった。

系統別日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	6	106	104	29	3.6		303	237
健康運動科	3	95	94	25	3.8		286	250

前期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	55	実技型						
		191	185	64	2.9	14	245	175
		小論文型						
		63	62	24	2.6	0	207	171
健康運動科	20	136	131	42	3.1	0	250	186

後期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	6	17	17	6	2.8
健康運動科	3	22	22	4	5.5

共通テスト利用入試 I期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	7	68	68	23	3.0
健康運動科	3	63	62	20	3.1

共通テスト利用入試 II期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	5	43	43	13	3.3
健康運動科	3	41	41	9	4.6

編・転・学士入試

学科	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	0	0	0	—

競争率=受験者÷合格者

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 学生数及び卒業生数

学生数

(令和4年3月1日現在)

		1年次	2年次	3年次	4年次以上
スポーツ科学科	918	234	225	226	233
健康運動科	284	72	68	71	73
合計	1,202	306	293	297	306

■ 出張講義

2021年度入学センターより依頼があり実施した出張講義・模擬講義数は22件(生徒総数704名)と昨年度9件(生徒数367名)より増加した。増加の要因は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた対面式の出張講義の依頼によるところと考える。22件のうち3件は、オンラインでの実施となり、学部教員の協力により実施することができた。出張講義ガイドブック「福岡大学模擬講義NAVI」には、本学部教員20名も掲載されている。また、例年マリンメッセ福岡で開催されていた「夢ナビライブ」は、こちらもオンライン形式に変更され、114名の生徒が講義動画を視聴し、そのうち54名の生徒とWEB上で質疑応答を行う機会を得た。

■ 令和4年度実施入試状況

アスリート推薦入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	0	0	0

飛び級入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	2	2	1

一般入試

	秋季*			春季*		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	8(0)	8(0)	6(0)	3(0)	3(0)	3(0)
博士課程後期	2(2)	2(2)	2(2)	4(2)	4(2)	4(2)

* () 内 社会人

外国人留学生入試

	秋季*			春季*		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	0	0	0	0	0	0
博士課程後期	0	0	0	0	0	0

推薦入試**

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	3(0)	3(0)	3(0)

** () 内 早期履修者数、但し該当学生は合格後 入学辞退

■ 令和3年度 学生数及び修了生数

学生数

(令和3年5月1日現在)

		1年次	2年次 (留年者含む)	3年次 (留年者含む)
博士課程前期	23	11	11	1
博士課程後期	8	2	1	5
合計	31	13	12	6

令和3年度の修了生については、博士課程前期修了11名が学位(修士号)を取得。博士課程後期修了2名が学位(博士号)を取得し、満期退学が1名であった。

5 教育活動

(1) 入学前教育

下園 博信

令和4年度総合型選抜入試及び推薦入学合格者に対して、外部業者と連携し、基礎国語5講、スポーツ科学入門7講の計12講からなる通信教育形式による入学前教育を実施している。今年度は、課題提出率（令和4年3月31日現在）は、総合型選抜入試合格者は96.7%、推薦試験合格者は90.8%であった。

基礎国語

- 1 講：PC時代に相応しい言葉力をつける・ノートを作る
- 2 講：ことばを自分のものにする(短文作り)
- 3 講：目の前のものを正確に描写する
- 4 講：自分を見つめる・他者を見つめる【実作1】
- 5 講：将来の夢について考える【実作2】

スポーツ科学入門基礎

- 1 講：「スポーツ科学」の研究領域
- 2 講：身体の構造と機能
- 3 講：フィットネス・トレーニング
- 4 講：スポーツのスキル
- 5 講：アスリートの身体管理
- 6 講：運動の効果とスポーツ損傷
- 7 講：データの処理

(2) 新入生懇談会

坂本 道人

新入生学部指導懇談会は、以下の内容を新入生に理解させ、活力ある学生生活となるための動機づけを行うものとして実施している。しかしながら、今年度においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、例年の午前・午後の2部構成ではなく、以下のとおり午後から前後半に分けて開催した。

○主な内容

- 1) 福岡大学の校訓を理解し、充実した学生生活を送るための諸注意。
- 2) スポーツ科学部生としての自覚を促し、スポーツ活動に専心する心構えと勉学に励む態度を啓発する。
- 3) 各種委員からのガイダンスにより、学生生活を円滑に始められるようにする。

○2021年度スポーツ科学部新入生学部指導懇談会

1) 前半

- <日 時> 令和3年4月6日(木曜日) 13:00~14:30
<場 所> 第2記念会堂1011・1221・1222教室
<方 法> Webexを用いた3教室同時配信
<内 容> ①学生部ガイダンス(学生部委員:坂本)
②早良警察署による「防犯・交通マナー講習」(DVDによる説明15分)
③HDセンター(DVDによる説明10分)
④健康管理センター(DVDによる説明5分)

2) 後半

- <日 時> 令和3年4月6日(木曜日) 15:00~15:40
<場 所> 第2記念会堂フロア
<方 法> 対面形式
<内 容> ①学部教員紹介
②グループディスカッション

前半に関しては、新入生を3教室に分散させ、Webexを用いた3教室同時に配信する方法で、できるだけ対面形式に近いかたちでの実施を試みた。

後半については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を十分に施しながら対面形式で実施した。

(3) クラス面談・修学指導

坂本 道人

■ クラス面談について

スポーツ科学部では、1・2年次生を対象にクラス別個人面談(グループディスカッション)を実施している。クラス別個人面談は、講師以上の専任教員が10~12名程度のクラスを担当し、定期的に学生の実態調査を行うもので、学生の生活状況や生活態度を把握するとともに、学生に対する注意喚起を行っている。大学生活を通じての授業、所属する運動部やサークル等の課外活動、アルバイト等の活動における問題点や悩みなどに対応し、個々にアドバイスできるような指導体制である。今年度も新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)感染拡大の影響に留意し、面談の方法については状況を考慮しながら担当教員の判断に任せるかたちでの実施となった。実施された面談については以下の通りである。

1) 新入生を対象とした個人面談(WEB・電話・メール・対面)

前期:4月6日(木)、6月28(月)~7月9日(金)

後期:9月22日(水)4限(14:40~16:10)フレッシュマンセミナー

2) 各担当教員における2年次生を対象とした個人面談（前後期に各1回）

前期：5月10日（月）～5月21日（金）・後期：9月27日（月）～10月8日（金）

1年次生は、学士課程の教育充実を図るために、基礎教育と導入教育を目的とした「フレッシュマンセミナー」が開講されており、その授業の1コマとして前後期に各1回ずつクラス面談を実施している。

2年次生は、継続的な指導として、1年次に担当した教員により引き続き個別指導が実施され、前・後期にクラス面談が行われる。

3年次生以降は、必修科目である卒業論文の事前指導として開講されている「スポーツ科学演習」を履修するため、各担当教員のゼミナールに所属し、その後、卒業までゼミナールの担当教員によって個別指導が行われる。

スポーツ科学部では、このような取り組みによって徹底した学生の指導体制を構築しており、学生も様々な立場にある教職員の助言・指導を受け、4年間の充実した学生生活が期待され、その成果は非常に大きい。

■ 修学指導について

スポーツ科学部は、前述した通り全学生を対象としたクラス別個人面談と修学指導対象の学生に対して面談を実施している。クラス面談に加えてさらに指導が必要な学生には、教務委員、学生部委員、入試委員、教務関係担当の教職員によって修学指導を実施している。また、令和3年度より、修学指導対象基準にGPAを取り入れている。対象となる学生は以下の通りである。

【修得単位数】

- 1) 2年次生：1年次の修得単位数が23単位以下の学生（登録単位数の半分以下の学生が対象）
- 2) 3年次生：2年次までの修得単位数が46単位以下の学生
- 3) 4年次生以降：3年次までの修得単位数が77単位以下の学生（卒業見込みなし）

【GPA】

- 1) GPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属すること

面談については、今年度は、従来どおり、1221教室において対面で実施した。

内容については、修学指導記録書に「なぜ単位を取れなかったのか？」「今後の対応はどうか？」といった点を記録して学生の指導を行った。単位修得不振学生は、「授業の欠席が多いこと」「試験勉強が十分にできなかったこと」「試験そのものができなかったこと」「遠隔教材への不適応」を理由に挙げている。1年次には、安易に単位が修得できると油断して単位修得できなかった学生や、試験勉強の方法がわからないといった学生も散見された。このような点を踏まえて、試験勉強に対する助言・指導、授業への出席指導、今後の進路に対する助言・指導を行っ

た。また、こういった修学指導（警告）が連続した場合には、修学支援新制度が廃止されることも併せて指導した。

学部・年次別の単位修得不振者の状況（％）

（令和3年4月1日現在）

	令和3年度入学生 (21台)	令和2年度入学生 (20台)	平成31年度入学生 (19台)
修得単位	30単位以下	60単位以下	90単位以下
学部・学科			
スポーツ科学部	10.1	8.2	5.7

父母懇談会のしおりより一部抜粋

（４）フレッシュマンセミナー授業方法

築山 泰典・藤井 雅人

本セミナーは、学生自身が「如何に学び、社会に貢献するか」について自問自答ながら自学自習を実践し、スポーツ科学部生としての規範とスポーツ科学部で学ぶ専門領域を理解し、卒後の進路と目標を明確に示すことができるようになることを目的としている。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での2年目となるが、感染状況に応じて原則対面授業としながら遠隔授業も活用しながらの実施となった。この時、授業内容は、1) 米沢学部長による「スポーツ科学部生として、理論と実践が融合した文武合一のすすめ」、2) コンピテンシー診断テスト、3) スポーツ科学部専任教員による専門性を生かした講義、4) スポーツ科学部全教員による1年次学生に対する個別の就学指導、などで構成されている。尚、今年度も、文章力講座、日本語力基礎調査そして言葉の力プログラムは実施できなかった。以下に、特筆すべき取り組みについて記載する。

コンピテンシー診断テストは、平成30年度以降、2年次後期必修科目「ステップアップセミナー」での同テストの実施に合わせる形で、リアセック社の「PROG コンピテンシーテスト」を学部予算により実施している。コンピテンシーとは、リアセック社によれば、「対課題基礎力」（課題発見力、計画立案力、実践力）、「対人基礎力」（親和力、協働力、統率力）、「対自己基礎力」（感情制御力、自信創出力、行動持続力）の3つのキー・コンピテンシー（およびその下位構成能力）から成る「自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力」を意味する。診断テストの結果については、各自の結果報告書による個人フィードバック、および訓練を受けたリアセック社の講師が行う授業での事後フォローアップ講座による全体フィードバックがなされる。その際、学生には、初年次生として大学生活を始めるにあたって、各個人が自分自身を客観的に理解し、今後その「強み」や「課題」についてどのように取り組んでいくのかをイメージしながら、付録の「ワークシート」を活用してコンピテンシー強化のための具体的な目標設定を行うように指導がなされている。尚、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴って、コンピテンシー診断テストの実施およびその結果のフィードバックをオンラインにて行った。

スポーツ科学部専任教員による講義は、例年 1 コマで 2 名の教員が担当し全員が関わっていたが、今年度、遠隔授業への対応もあり、1 年次必修講義科目を担当しない教員が主となる構成へ変更した。フレッシュマンセミナーの目的として「スポーツ科学の専門性を理解する」を掲げており、学生が教員の専門性から学部を理解することを優先した結果でもある。例年、知財に関する講義内容を組み入れていたが、よりスポーツ場面に特化内容とするため、大学スポーツ協会 (UNIVAS) の紹介と肖像権も含めた知財に関する教育を乾教授に依頼した。

フレッシュマンセミナーでは、初年次教育として大学での受講態度も含めた「学び方を学ぶ」との側面を大切にしてきた。また、文章力講座や言葉のカプログラムは、学生同士のコミュニケーションなど密な人間関係により成立し教育効果を上げてきたが、今後の新たな生活様式での展開手法を検討することが急務であると言える。

2021年度 1年次開講 スポーツ科学部フレッシュマンセミナー(前期)

前期

回数	1 (未定)	2 (教室は掲示板確認)	本講座のねらい
日付	4月14日	4月21日	
1年次全員	○米沢学部長：スポーツ科学部学生に望むこと ○築山教務委員：フレッシュマンセミナーのねらい	○上原先生 +感染症予防指導	

回数	3 (教室は掲示板確認)	4 (教室は掲示板確認)	5 (教室は掲示板確認)	6 (教室は掲示板確認)
日付	4月28日	5月19日	5月26日	6月2日
1年生全員	○霜島先生 +情報基盤関連フォロー	○藤井先生 +FURIKA等機構関連 +コンピテンシー案内	○布目先生 +国際交流センター	○野口先生 +就職・進路支援

回数	7 (教室は掲示板確認)	8 (教室は掲示板確認)	9 (教室は掲示板確認)	10 (教室は掲示板確認)
日付	6月9日	6月16日	6月23日	6月30日
1年生全員	○山口先生 +図書関連 +日本語力テスト案内	○乾先生 +スポーツと知財 (UNIVASとの関連含む)	○柿山先生	○岩本先生

回数	11 (教室は掲示板確認)	12 (教室は掲示板確認)	13 (教室は掲示板確認)	14 (教室は掲示板確認)
日付	7月7日	7月14日	7月21日	7月28日
1年生全員	○今村先生	○川中先生	○青柳先生	○森口先生 +夏季休暇中の安全教育

後期

回数	1 (教室は掲示板確認)	2 (教室は掲示板確認)	3 (教室は掲示板確認)	4 (教室は掲示板確認)
日付	9月22日	9月29日	10月6日	10月13日
1年次全 員	後期ガイダンス (築山)	クラス別個人面談 (第2記念会堂フロア集合)	○柿本先生	○片峯先生

回数	5 (教室は掲示板確認)	6 (教室は掲示板確認)	7 (教室は掲示板確認)	8 (教室は掲示板確認)
日付	10月20日	10月27日	11月10日	11月17日
1年次全 員	○小傘礼先生	○下園先生	○田口先生	○坂本先生

回数	9 (教室は掲示板確認)	10 (教室は掲示板確認)	11 (教室は掲示板確認)	12 (教室は掲示板確認)
日付	11月24日	12月1日	12月8日	12月15日
1年次全 員	○重森先生	○田場先生	○長島先生	○信岡先生

回数	13 (未定)	14 (未定)
日付	12月22日	1月12日
1年生全員	○道下先生	○渡邊先生 +授業アンケート

1) 本講座の背景

2021年度の全国大卒求人倍率は、1.50倍（リクルートワークス研究所調べ）と、前年の1.53倍より0.03ポイント微減したが、1.5倍台を維持し底堅い結果であった。この要因としては、コロナ禍による景況感の不透明さにより、中小・中堅企業で採用予定数が減少した。また、飲食店・宿泊業のような、コロナ禍の影響を受けやすい業種で、採用予定数が減少した企業が多かったことにあるといわれている。

このような状況のなか、本学部の就職率は、男子96.2（前年度91.4）%、女子98.6（前年度90.0）%、全体96.9（91.0）%であった。全国的にコロナ禍による企業の採用計画縮小の影響が危惧される状況の中、本学部のキャリア教育については一応の成果が確認できたといえるのではないかと考えられる。しかしながら、今後も引き続き本学部が就職支援において目指すべきものは、現在の社会情勢を鑑み、起業側の打ちだす採用手段に対応し得る学生のスキル向上を目的とした授業内容の充実を図ることにあると考えられる。

2) 本講座のねらい

本講座の主たる目的は、部活動と就職活動の両立を求められる本学学部生に、就職活動とはどういったものか、今社会人として必要な能力は何か、運動部学生ならではの強みとは何かを理解させ、キャリア教育と学生生活の両面の充実を図ることにある。

内容については、公務員や青年海外協力隊経験者、スポーツ関連企業、現役教員、現役内定取得者など本学部生の特性や興味に沿った内容としている。近年、大学教育を通じたジェネリックスキル育成への期待が高まっている状況を受け、PROGテスト（株式会社リアセック）とその後のフォローアップセミナーの実施、さらに昨年度からは、全国でも初の試みとなる大学スポーツ協会（UNIVAS）と正課内授業で連携し、「UNIVASデュアルキャリアプログラム」に取り組んでいる。これは、運動部学生のキャリア支援と学生生活の質向上を図る目的に、UNIVASとマイナビ（株）で共同開発されたものであり、本講座の目指すところと合致するため継続的な導入に至る。このように、学生一人一人の就職活動に対する興味を促し、この時期に何を考え、何を準備しておくべきかを考えさせることが本講座のねらいである。

3) 今年度の新たな取り組み

今年度のステップアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に細心の注意をはらい、対面形式で授業を実施した。授業の形態については、受講生を学科別で2教室に分け、各教室で同一の教材を視聴する方法と、講師の配信用教室を別にもう一部屋確保し、そこから2教室に生配信する方法の2パターンで実施した。内容については、昨年度と同様に、株式会社リアセック社のPROGテストによる自己診断をはじめ、現役教員や福岡トヨタ自動車株式会社、ミズノ株式会社など企業で活躍する学部卒業生に協力を仰ぎ、在学生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。さらには、昨年度に引き続き大学スポーツ協会（UNIVAS）ならびに株式会社マイナビと正課内授業で連携をはかり、両者によって共同開発された「UNIVASデュアルキャリアプログラム」を今年度においても講義内容に採用した。

4) 成果と課題について

今年度の本講座に対する学生の授業コメントは以下のとおりである。

第3回（10月14日）講師：假野陽介（キャリアセンター）

今回の講義を聞いて、やはり就職に対して考えが甘いと実感したのと、どうしても名詞で仕事を考えてしまっていると思いました。〇〇がしたい。という仕事はどうゆう働きがいがあって、どうなることが自分は好きなのか、他に何か結びつけられないのかなどを考えてみることでより自分の理想の就職活動を行えると思いました。まずはもっと自分を知り、どういう働き方が良いのか、自分はどのような強みがあるのかなどを明確にしたいと思いました。（GH 男子）

第4回（10月21日）講師：首藤圭祐氏（令和2年度卒；福岡トヨタ自動車株式会社）

やりたいことが決まっていなくても、主軸として「感謝される仕事がしたい」という思いがあったからこそ入社できたと思う。私は自身の専門種目である陸上長距離の監督になりたいという思いから教員を志望しているが、一つのことだけに執着するのではなく、いろいろな説明会に行って自分にもっと合ったものはないのかと探す努力と柔軟さを持って行動しようと思った。また、活きたこととして部活動を取り上げており、一つの目標に向かって努力するということは私自身もそういった力はある方だと思うので、部活動をもっと活かせるように日々の活動に力を入れていきたい。最後に、沢山の人と出会ったことを活きたことと挙げていて、コロナの影響でなかなか人と接する機会も少ないが、大学生という利点を生かして人脈作りにも励んでいきたい。（GS 男子）

第5回（10月28日）講師：倉本昂洋氏（令和3年度卒；壱岐市立郷ノ浦中学校）

私は将来的に就職をしたいと考えているため、今回の講義は関係ないことだ、と正直思っていた。しかし、話を聞くと社会人にとって大切なことがたくさん述べられていて、参考になる話ばかりであった。「人は真似ることから始まる」というように、成功している人には理由があるので、そのスキルを真似することから始めようと思った。採用試験の勉強量がとても多くて驚いた。現役合格を目指す友人はこれくらいの勉強量をこなさないと合格できないのかと思った。最後に述べられたように、将来についてたくさん悩んでみようと思った。今自分が考えている未来は本当に望んでいるものなのか、安定を求めているか、選択したあとに後悔のないようにしたいと思った。私も難しい道を選択して頑張ってみようと思えた。（GH 女子）

第7～10回（11月4日～12月2日）講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

今回の講義では、信頼関係とリーダーシップについて学びました。信頼関係というのは、徐々に出来てくる関係で、良い信頼関係を作り上げるためには日頃からコミュニケーションをとる事が必要です。そのため、まずは名前を覚えたり呼んだりすることから始めることが大切だと知りました。そして、リーダーシップですがリーダーシップをとる人間になるためには、周りを見る力などが必要だと思います。また、まとめる力も必要だと思うので、やはりコミュニケーション能力が高い人がリーダーシップをとることが多いと思いました。（GS 女子）

第11回（12月9日）講師：外田晏堂氏（令和元年度卒；ミズノ株式会社）

今回の講義で大切だと思うことは、微差が大差を産むということであった。競技スポーツでも勉強でも、大きな成功は何もかも小さな取り組みが積み重なって起こっているものだった。今から自分に出来ることとしては毎日なんでもいいから授業のプリントに目を通す、何か小さな目標を持つ、企業の名前を知ることが大切だと思った。また毎日小さな幸せ(楽しみ)を持つことも人生において大切なことであると思った。自分でしか未来は切り開けないので自分で自分の人生を豊かにしたいと思った。(GS 男子)

以上が今年度の講義に対するコメントの抜粋であるが、どのコメントからも講義内容への興味・関心の高さが窺える。また、昨年度より実施する就職活動に対する意識調査において、「自身の就活活動に対して、どの程度意識していますか?」という質問に対し、「かなり意識している、少し意識している」と答えた学生が講義開始前後で 17%の上昇が確認された。この結果からみても、今年度コロナ禍によって全プログラムを対面授業で実施できない状況下においても、一応の成果を得ることができたのではないかと考えられる。

学生を取り巻く就職状況は前述のとおり毎年大きく変化している。本講座においても、それらの変化に対する迅速な対応が求められている。本講座における今後の課題について、まずは、インターンシップ(就業体験プログラム)関係講座の積極的な導入が挙げられる。また、昨年度から取り入れている大学スポーツ協会(UNIVAS)との連携、キャリア支援(デュアルキャリアプログラム)の活用もより充実させていく必要があると考えられる。以上のことを次年度以降に向けた課題として、本講座の更なる充実を図っていきたいと考える。

最後に、今年度も本講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念を払拭できない状況でのスタートとなったが、多くの関係各位のご理解とご協力のお陰により、充実した講義内容・質を確保することができた。ご協力を賜った関係各位に心よりお礼申し上げます。

(6) 授業形式と授業用ツール活用について 築山 泰典・今村 律子・岡部 奈央

後期授業が終了した後に、スポーツ科学部の専門科目について、非常勤講師を除いた学部教員(講師以上)を対象に、「講義形式および遠隔授業ツールの調査」を行った。令和3年度は、原則対面授業の実施であり、前期・後期とも、授業区分(講義・実技・演習・実習等)において、遠隔授業を推奨する期間があるなど、学部内での推奨ルールや、授業の受講者数や座席指定など条件下によって対面形式や遠隔形式を担当教員の判断によって実施された。また、対面実施を行っていても、出張等の場合で、授業2講義分を遠隔形式で実施することも可能であった。

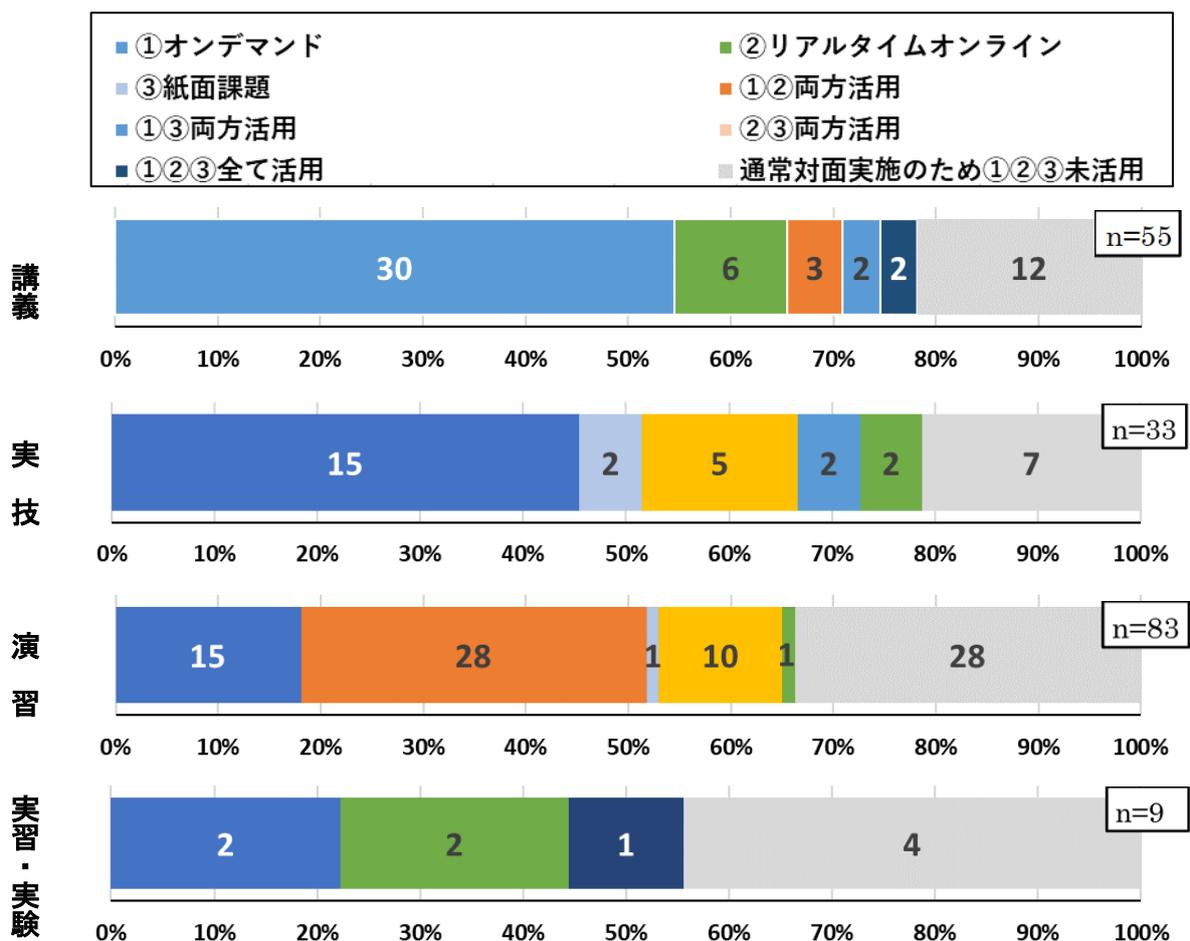
授業形式を調査し、遠隔実施時での授業形式(①オンデマンド形式—一定期間の動画視聴、②リアルタイムオンライン形式—時間割どおりの曜日時限に実施、③紙面課題)と、対面実施時および遠隔実施時の授業ツールとしてFU_ポータル(小テスト機能、扇内容作成、課題提出、意見交換、授業管理)、Webex(ミーティング機能、ブレイクアウト機能)、FU_box(講義内容提示、ファイルリクエスト)、その他(アンケート機能アプリ)の活用率について調査を行った。本年度の報告対象は、主担当者の科目で、同授業内容で複数クラスを持つ場合は1科目とした187科

目を対象とした。下記は、遠隔を行った場合での授業形式、および、授業区分（講義、実技、演習、実習、実験）別に、教育ツールの活用について集計を行った結果である。特別実習（集中・実習）に関してはアクアスポーツ、ゴルフ実習およびキャンプⅡは対面で実施された。キャンプ実習は、遠隔授業ツールを活用して実施され、スケート実習とスキー実習は中止となり、遠隔授業ツールを活用したキャンプ実習に代替えされたため、特別実習に関しては、今回の集計結果から除いた授業区分を対象とした。

調査期間：令和4年3月10日～3月31日

調査対象：スポーツ科学部専門科目担当教員（複数人で一科目を担当の場合は、主担当者のみ、同授業内容で複数クラスにわたる場合は1科目としている）で、非常勤講師担当科目を除く合計187科目
 授業区分 - 講義（55科目）、実技（33科目）、演習（83科目）、実習・実験（9科目）

I. 「遠隔実施時の形式について」—授業区分別

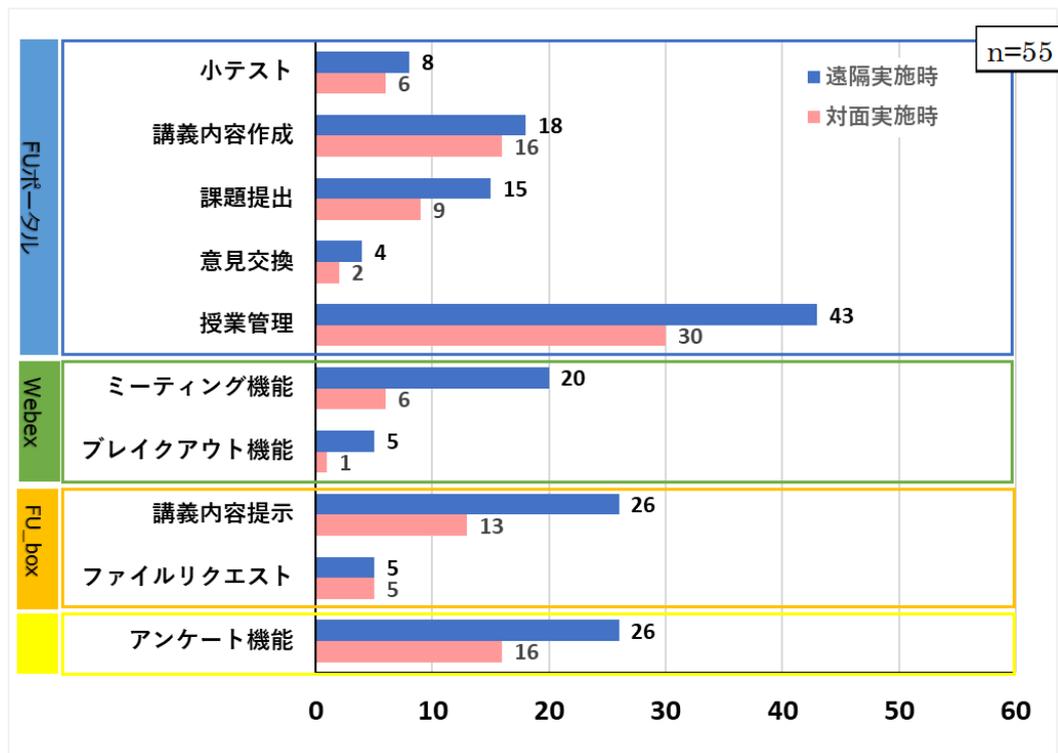


下記は、「授業用ツールについての調査」の結果である。授業用ツールとして、【FU ポータル】—小テスト機能（前アンケート作成）、講義作成（講義内容の提示）、課題作成（課題提出機能）、意見交換（BBS 掲示板機能）、授業管理（連絡機能・cis メール自動送信も含む）、【Webex】—ミ

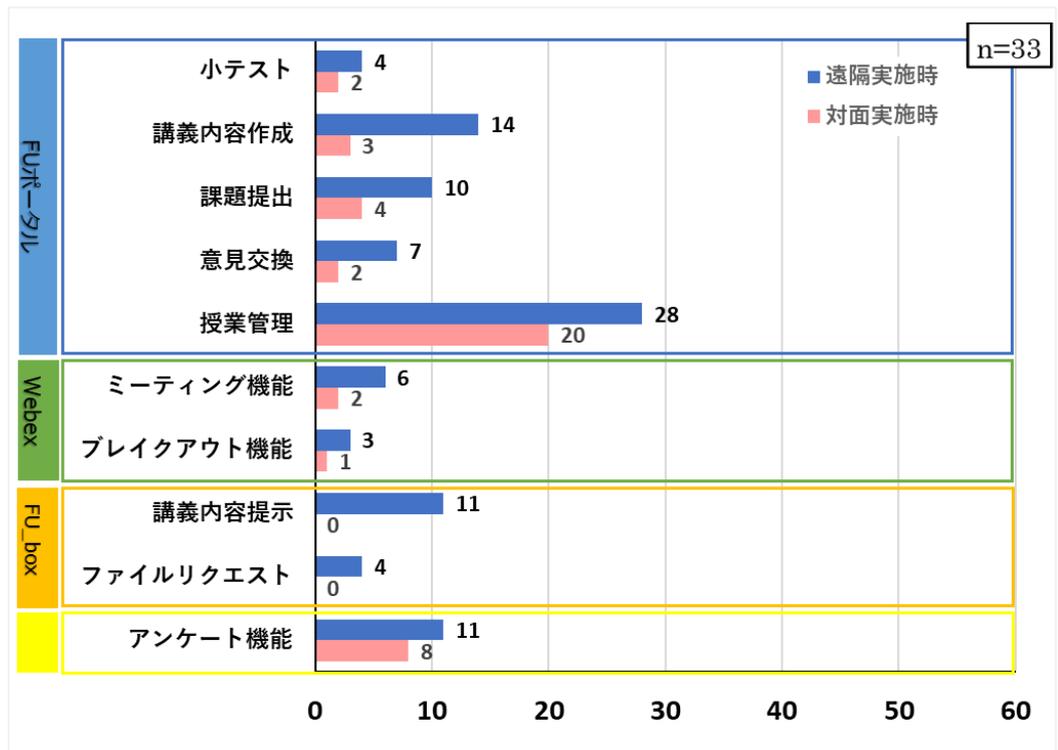
ーティング機能、ブレイクアウト機能（グループミーティング）、【FU_box】－講義内容提示（サイズ容量無制限）、ファイルリクエスト（課題提出機能）、Web アンケート機能ソフト（Google フォームや Microsoft Office365 の Forms）について、各授業で使用した授業用ツールを「遠隔実施」と対面実施時」に分けて調査を行った。

「授業用ツールの活用について」－授業区分別

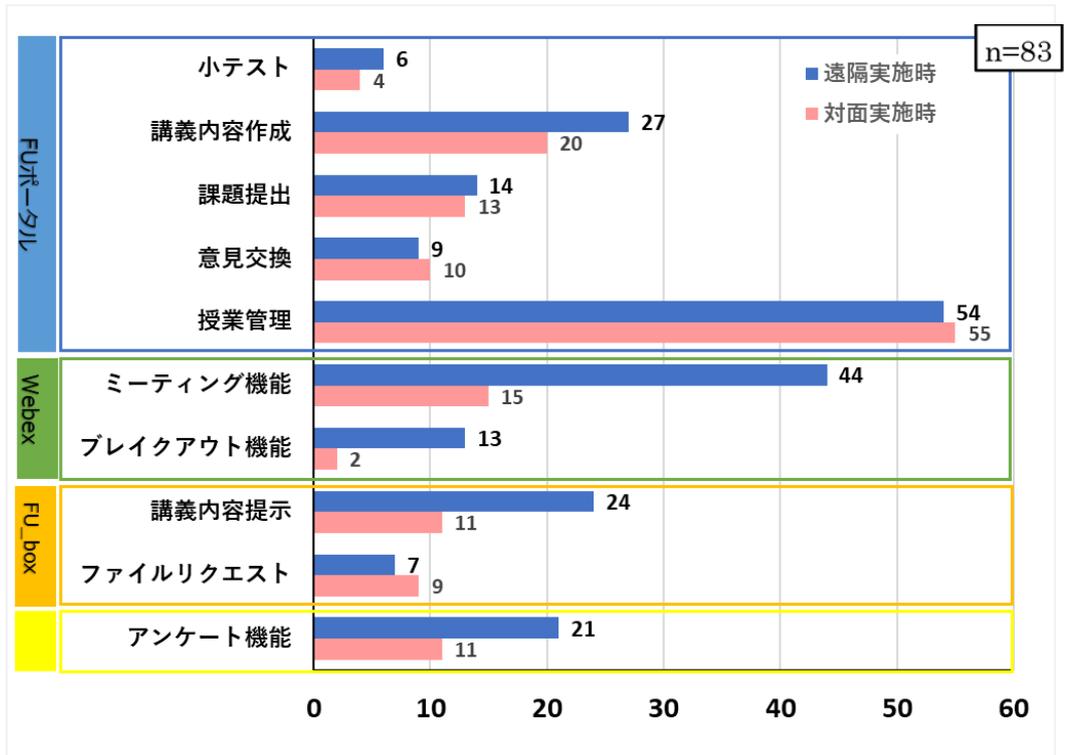
講義



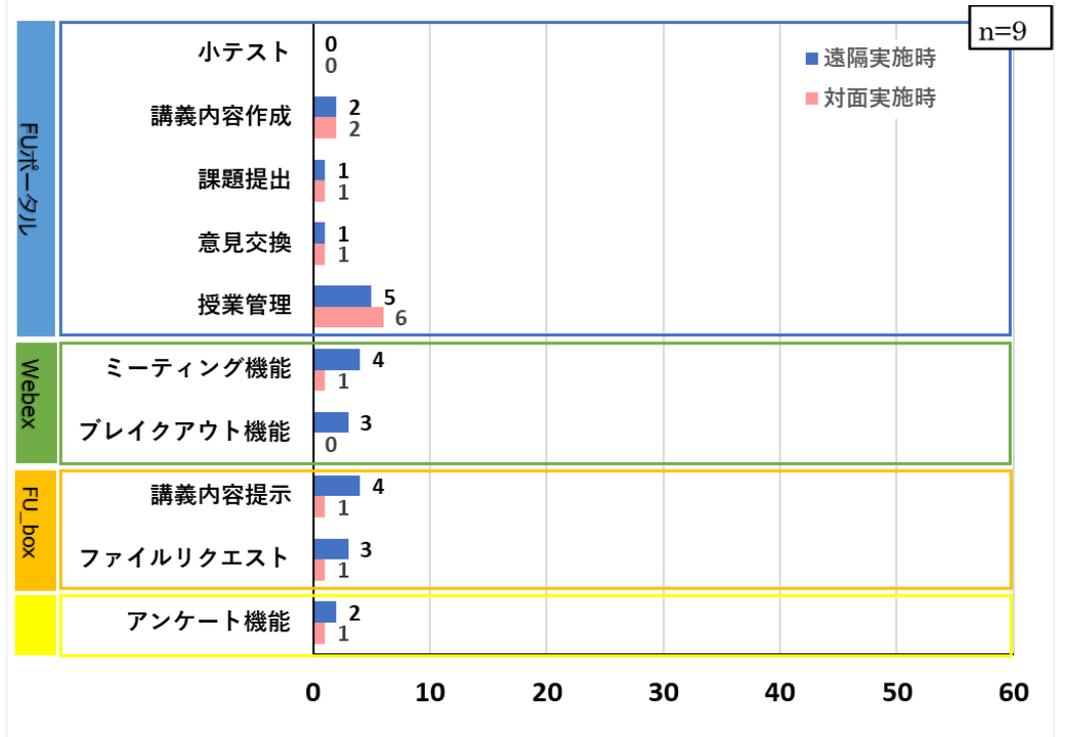
実技



演習



実習・実験



6 研究活動

(1) スポーツ科学部

道下 竜馬

■ 福奏プロジェクト

福岡大学 研究ブランディング事業として行われている「福奏プロジェクト」における3つのチームの内（Team 2：幼少期～青年期 学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム、Team 3：中高年期～老年期 社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム）に関してスポーツ科学部は中心的な役割を果たしている。

「Team2：No 2小学校の体育授業の支援」

教員のみならず、学部学生が体育授業を支援し、運動が苦手な子も含めて全員が飽きずに授業に参加でき、運動能力を高めるためのプログラムを開発。学生が小学校の体育の授業に携わることにより、責任感が身に付くと同時に教えることの面白さを知り、卒業後の進路として教員を選ぶ学生も増えてきた。小学校の教員にとっても、最新のトレーニング理論や授業の進め方を学ぶよい機会になっており、現在は、教員向けの実技研修も行っている。

「Team2：No 1スロージョギング®による安全かつ効果的な予防プログラムに関する研究」

本研究チームでは、これまでの知見を応用して、スロージョギングをさらに普及させる取り組みを行っている。その一つが2泊3日の「ヘルスツーリズム」である。食品会社、旅行会社、スポーツクラブ、企業の健康保険組合などと協働し、運動（スロージョギング）、食事、観光を組み合わせたプログラムの開発を行っている。また、福岡県嘉麻市と連携してヘルスツーリズムに薬膳料理を導入した健康増進プログラムの開発も進めている。

なお、令和3年度は研究ブランディング事業である「福奏プロジェクト」の最終年度であるため、3月にZoomを用いたオンラインでの最終討論会を実施して、両プロジェクトの成果報告を行った。

■ 共同研究プロジェクト

- 福岡大学とミズノ株式会社との連携・協力協定に基づき、その中心となるスポーツ科学部では、以下の研究プロジェクトが進行中であり、一部の成果が出ている。
 - 「水中トレーニングプログラムおよび製品の効果に関する研究」では、アスリートを対象として水中運動プログラムの開発とその効果の検証をするため、新プールにてアクアフィットネスの介入研究を行っている。
 - 「保温機能付きウェア着用が運動後の筋温に及ぼす影響」では、トレーニング中あるいはトレーニング後での筋温コントロールが、どのように筋パフォーマンスへ影響を及ぼすか、その効果を検証している。
- ヨネックス株式会社との共同研究では、テニスラケットとバドミントンシューズの開発を進めている。
- 旭化成株式会社との共同研究では、「ウェアラブル端末を用いた新たな有酸素能力評価法に関する研究」として、本学単独所有特許を応用し、ウェア型端末を用いた非侵襲的な新規の心肺能力評価システムの開発を進めている。

- ・ フジッコ株式会社との共同研究では、「大豆たんぱく質摂取と運動の併用がマウス骨格筋に与える影響」として、動物実験による基礎研究から大豆たんぱく質摂取と運動の併用がどのように骨格筋に影響を及ぼすのか、その効果を検証している。

(2) スポーツ健康科学研究科

道下 竜馬

まず、スポーツ健康科学研究科博士課程後期では、田上友季也氏が「自律神経活動に着目した新規運動処方システムの開発」のテーマで、神徳和子氏が「慢性腎臓病の運動処方の検討」のテーマで、それぞれ学位審査の最終試験に合格し、博士の学位を取得した。指導の労に対して心より感謝申し上げたい。博士課程前期では、8月に中間報告会を対面で実施した。2月の修士論文発表会は、新型コロナウイルス感染症流行のために対面とWebexを用いたオンラインの同時開催で行われ、最終的には11名が最終試験に合格した。その中で草野雅貴氏が、参加した教員の採点で最高点を獲得し、優秀発表賞を受賞した。

国際交流に関しては、釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流会が会場を隔年ごとに持ち回ることによって実施されている。本年度は2021年11月に釜山国立大学で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症流行のために残念ながら中止となった。

7 FD・SD 活動

(1) シラバス点検

藤井 雅人

スポーツ科学部では、毎年教務委員が中心となって、非常勤講師を含むスポーツ科学部専門教育科目担当教員から提出された次年度用の全シラバスの確認作業を行っており、2021 年度で 12 年目を迎えることとなった。

令和 4 (2022) 年度シラバスの確認作業は、2022 年 2 月 7 日に、スポーツ科学科の確認作業担当者(森口哲史、今村律子、田場昭一郎)、健康運動科学科の確認作業担当者(藤井雅人、山口幸生、長島和幸)、および確認作業担当者作成成分確認者である築山泰典(教務委員)によって実施された。その際、シラバスチェック委員会作成の「2022 年度シラバスチェックのポイント」である「FU プラスアップ授業に関する記述(スタートアップまたは中間ふりかえり)」「予習・復習の学習時間の明記(〇〇分)」「成績評価基準および方法の明記」「実務家教員の確認」「授業計画が適切か(回数等)」「複数教員で授業を担当する場合、授業計画に担当教員名の漏れがないかの確認」を中心に確認を行った。これらのポイント等について不備が確認されたシラバスについては、科目担当者に修正の上、再提出するよう求めた。その後再提出されたシラバスの修正箇所についての確認を行い、2 月 21 日までに全ての確認作業を完了した。

こうした確認・修正の取り組みもあって、スポーツ科学部専門教育科目のシラバスは全体的に見て、「シラバス作成のためのガイドライン」に則って適切に記載された内容に統一された。

また、共通教育科目における保健体育科目のシラバスについても、共通教育センターの依頼を受けて、2022 年 2 月 8 日までに、確認作業担当者である下園博信および霜島広樹、確認作業担当者作成成分確認者である藤井雅人(共通教育研究センター長補佐)が確認作業を行った。その際に修正が必要と判断されたシラバスについては、科目担当者に 2 月 25 日までに修正の上、再提出するよう依頼した。再提出されたシラバスは 3 月 8 日にウェブ上で公開された。

スポーツ健康科学研究科の「大学院シラバス記載内容に係るチェック作業」は、チェック作業担当者である布目寛幸および重森 裕、チェック作業担当者作成成分確認者である上原吉就(研究科長)によって実施された。その際に記載に不十分な箇所があるとされたシラバスについては、必要に応じて当該作成者に記載内容の改善等の要望を行うなどした。その後再提出されたシラバスの修正箇所の確認を行い、2022 年 3 月 3 日までに全てのチェック作業を完了した。

(2) 学外研修参加

藤井 雅人

2021 年度における学外実技研修への参加状況は下記の通りであった。

①2022 年 1 月 3~6 日に長野県菅平高原スノーリゾートで開催された、大学スキー研究会主催「2021/22 年度 大学体育スキー指導者研究集会」に、スキー実習担当者である伊藤 奨、岩崎 領、木浪龍太郎、神田菜摘、座波吉子の 5 名が参加した。実技研修参加者によって初心者クラス(木浪、神田、座波)、初級クラス(伊藤)、中級クラス(岩崎)ごとに作成された詳細な報告書は、

スポーツ科学部教授会（2022年2月4日）において報告され、研修内容の情報共有が図られた。なお、昨年度に引き続きスキー実習が中止となったこともあり、研修参加者から他教員への研修内容の伝達の機会を確保することはできなかった。

②2022年3月6～8日に流通経済大学・龍ヶ崎キャンパスで開催された「公益社団法人 全国大学体育連合 第13回大学体育指導者養成研修会」に、山本泰暉および城間春香の2名が参加した。山本と城間による本指導者養成研修会についての報告書は、2022年度4月開催の第1回目のスポーツ科学部教授会（2022年4月6日）において、特に実技研修内容と講演内容に関わって報告される予定である。その際、前者については「レクリエーションスポーツ」と「超人スポーツ」を中心に、また後者については「体育実技とアクティブラーニング」および「大学体育における超人スポーツの可能性」に関して、今後の授業の質向上に向けた有益な情報提供がなされることになる。なお、本研修会への参加には、大学からの「FD活動推進経費」が用いられた。

また、下記のように、複数人の教員がオンライン形式による3つの研修会に参加した。ただし、教授会報告等での情報の共有はなされなかった。

①公益社団法人全国大学体育連合九州支部／九州地区大学体育連合夏期研修会（九州体育・スポーツ学会との合同企画）（2021年8月29日：オンライン開催）に、柿山哲治、築山泰典、藤井雅人らが参加した。なお、築山と藤井が、「コロナ禍にある今、大学体育の『不易流行』を考える」をテーマとする本研修会で話題提供を行った。

②公益社団法人全国大学体育連合主催「第9回大学体育スポーツ研究フォーラム」（2022年3月3日：オンライン開催）に、柿山哲治、藤井雅人、山口幸生、大坪俊矢、古瀬裕次郎、西田智の5名が参加した。なお、古瀬、西田、大坪がそれぞれ一般発表において研究報告を行った。

③公益社団法人全国大学体育連合九州支部／九州地区大学体育連合主催「ー2020（令和3）年度春期ー体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」（2022年3月15・16日：オンライン開催）に、柿山哲治、藤井雅人、伊藤 奨の3名が参加した。なお、伊藤が一般研究発表を行った。

（3）ワークショップ、研修会の開催

藤井 雅人

2022年1月14日に、田辺明博氏（株式会社リアセック執行役員）および古瀬裕次郎氏（本学スポーツ科学部助教）を講師とする「PROG コンピテンシーテストの結果をスポーツ科学部独自アンケートと紐づけて分析するーその2：縦断的分析の視点から」と題した令和3（2021）年度スポーツ科学部主催 FD ワークショップを開催した。なお、事前の開催案内にも示したとおり、古瀬氏とともに、山口幸生氏（同学部教授）と西田智氏（同学部助教）も講師を務める予定であったが、諸般の事情により急遽不参加となった。本 FD ワークショップは、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「Webex Meetings」を利用した LIVE 配信によって実施した。本 FD ワークショップには、スポーツ科学部所属の講師以上の専任教員および助教・助手のほぼ全員に該当する計54名（3名欠席；ただし在外研修中および忌引の教員計2名を含む）、および同学部事務職員3名が参加することとなった。また、薬学部教員1名、教育開発支援機構から関係教員3名および同機構事務職員1名、共通教育センター事務職員1名の参加もあり、本

FD ワークショップへの参加者総数は 63 名となった。なお、本 FD ワークショップは、大学からの「FD 活動推進経費」を用いて開催された。

2015 年度以降 7 年連続でコンピテンシーテストが主題となることになった、このスポーツ科学部主催 FD ワークショップでは、昨年度初めてリアセック社の協力の下で 1 年生に対しコンピテンシーテストと並行して実施した本学部独自アンケートと同テストとを紐づけた分析結果について報告した前回の FD ワークショップの成果を踏まえて、2 年生になった同一の対象群への同様の調査の結果について経年的な分析を試みることに、そうした分析を基に今後の FD 活動の展開への示唆を検討することが主目的とされた。また、その点に先立って、昨年度と同様に、田辺氏による講演を通して、2021 年度のコンピテンシーテストの結果に関わる全体的傾向を把握し、その特徴を探ることも目指された。

まず、田辺氏には、2021 年度の 1 年生および 2 年生のコンピテンシーテストの結果、また 2 年生のその経年的変化について講演いただいた。田辺氏も指摘したとおり、ここ 2 年間のコロナ禍における本学部 1・2 年生のコンピテンシー総合平均スコアが極めて高く (3.70~4.04)、しかもコロナ禍以前よりも上昇している点が特筆される。他大学の全国平均スコア (3.0 程度) との比較において、また一般的にはコロナ禍においてスコアが低下する傾向にあることに鑑みて、本学部学生が高いコンピテンシーを有していると考えることができよう。ただし一方で、1 年生から 2 年生になる際にコンピテンシースコアが低下すること、さらにコンピテンシー要素の中の「対課題基礎力」(特に「計画立案力」) のスコアが低いことなどの問題点も挙げられた。なお、本 FD ワークショップのディスカッションの中で、後述の古瀬氏による対象が細分化されたコンピテンシー分析の結果を受けて、学年全体の平均値を評価することの意味について疑義が投げかけられることとなった。

続いて古瀬氏には、昨年度と本年度の 1 年生のコンピテンシーテストの結果について、同テストと並行して実施した本学部独自のアンケート調査に紐づけて分析いただいた。特に入学形態と入学目的に基づき細分化して分析されたコンピテンシーテストの結果は、属性の異なる対象集団に応じた教育方法の必要性を示唆するところとなった。講演後のディスカッションにおいて、例えば入学目的をさらに細分化してみた分析等が提案されるなど、学生の属性に応じたコンピテンシー特性に関する情報収集およびその精緻な分析が引き続き今後の重要な課題になると確認された。なお、昨年度の 1 年生のコンピテンシーが全体的に極めて高かったことから、本年度 2 年生としての同テスト結果との経年的比較が難しいとの判断から、ワークショップタイトルにもあった「縦断的分析の視点から」の分析を断念せざるを得なかった。こうした縦断的分析もまた今後の重要な課題となることが確認された。

なお、昨年度に引き続き本年度もスポーツ健康科学研究科主催 FD ワークショップは開催されなかった。

2021年度の授業アンケート FURIKA は、前期7月7日～8月30日、後期12月20日～1月17日の期間で実施された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、両学期の授業は面接（対面）形態と遠隔形態の混在の下で開講されたため、FURIKAの結果もまた両者の授業形態の混在を反映したものとなっている。また、2021年度より運用が開始された「FUプラスアップ授業」について、それが自身の学習の促進にどの程度役立ったかという回答項目が追加されることとなった。

「2021年度前期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」（回答学生数／履修学生数）は51.8%（大学全体の回答率は39.6%）、「実施率」（回答率30%以上の回答科目／対象科目）は73.6%（大学全体の実施率は64.9%）であり、前年度前期と比較して、前者は4.8%低下し、後者は23.5%もの減少を示した。初めてFURIKAが導入された2018年度前期との比較（「回答率」82.3%；「実施率」97.3%）においても、その低下が際立っている。

また、学部専門教育科目のシラバスに示されている到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」を、スポーツ科学部ディプロマポリシーに即して見てみると、平均して「知識・理解」4.3、「技能」4.3、「態度・志向性」4.4となり、例年と同様に非常に高い値を示した（5点が最高点）。また、授業への主体的・積極的な取り組みを示す「積極性」については4.3、授業内容の理解に関わる「理解度」についても4.4となり、到達度と同様に高値となった（ともに5点が最高点）。ただし、「FUプラスアップ授業」については3.5にとどまった。

次に、「2021年度後期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」は42.4%（大学全体：31.6%）、「実施率」は53.0%（大学全体：46.0%）であり、前期よりもかなり低下している。また、シラバスの到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」は、「知識・理解」4.2、「技能」4.4、「態度・志向性」4.4となり、前期と同様に非常に高い結果となった。さらに、前述の「積極性」および「理解度」についても、ともに4.3と高値を示した。ただし、これも前期と同様に、「FUプラスアップ授業」については3.5にとどまった。「FUプラスアップ授業」については全体的に、受講生の学習を促すための何らかの改善が必要といえるかもしれない。なお、前後期ともに、共通教育科目における保健体育科目を対象とするFURIKAの結果は示されていない。

以上のように、2021年度前・後期のFURIKAの全体的な結果からは、昨年までと同様に、スポーツ科学部生が専門教育科目の授業での「到達度」「積極性」「理解度」に関わる自らのパフォーマンスを高く評価していることがわかる。コロナ禍で原則遠隔形態での授業を余儀なくされた昨年度に増加した、授業時間外で課題などに取り組む学習時間が、今年度も（若干の減少傾向はみられたが）概ね維持されたことが、そうした学生自身の高評価をどの程度支えるものなのかを分析する必要があると思われる。また、前述したように、今年度は学生によるFURIKAの回答率そのものがかなり低かったため、回答者の属性なども考慮した慎重な結果考察は必要であろう。

実施率については、後期が前期に比べてかなり低下する傾向は変わらず、それに加えて前期のそれ自体も昨年度比で相当低かった。ただし、こうした実施率の低さの要因の1つとして、当該

科目の受講者総数に占める回答者の割合が 30%未満であることにより未実施科目に分類されてしまっているという点を指摘できることから、担当教員による回答率の増加のための働きかけ次第で実施率は上昇するものと思われる。

この FURIKA の特徴の 1 つとして、担当教員、学位（教育）プログラム責任者の教員、学生にそれぞれきめ細やかなフィードバック情報をウェブ上で提供していることが挙げられるが、2021 年度も学生や教員によってそうした情報が十分に活用されているとはいいがたい状況が続いた。とりわけスポーツ科学部生によるフィードバック情報の閲覧率は非常に低いままである。今年度は、例えば 3 年生および 4 年生のゼミナール担当教員に、第 1 回目の面接（対面）授業でゼミナール学生にフィードバック情報を閲覧する時間の確保や、そうした情報から得られる学びや気づきの重要性等についての説明・指導を依頼したが、学生にはなかなか FURIKA 実施の意図や意義が伝わらないというのが現状である。引き続き学生への粘り強い働きかけが必要であろう。

教員については、依然としてフィードバック情報をスポーツ科学部全体で組織的・体系的に活用するに至っていないこともあり、個々の取り組みに依存しているところがある。今後の改善が必要であろう。ただ一方では、非常勤講師を含む学部専門教育科目および保健体育科目の担当者に、「この授業であなたが学んだことは何でしょうか」という質問に対する受講生の記述回答（いわゆる「学生コメント」）の公開選択（2019 年度後期より義務化）、およびその学生コメントを受けての「教員コメント」の記入（2021 年度より義務化）について説明・依頼したところ、昨年度に引き続き、前者については前・後期ともに両科目 100%の公開率を達成し（ただし現在自動的に同コメントは公開となるように設定されている）、また後者についても他学部のコメント記入率と比較して格段に高い結果となっている（学部専門教育科目は前期 76.4%、後期 72.0%；保健体育科目は前期 74.4%、後期 60.6%；前期第 2 位の人文学部は 24.0%）。担当教員によるフィードバック情報の活用の意識は高まってきていると評価できるものの、特定の教員のコメント記入がなされていない傾向も見受けられるので、担当教員に対する一層の啓蒙は必要であろうし、これらの成果が、フィードバック情報を閲覧する学生に深い学びや新しい気づきを与えるきっかけとなるような工夫も求められよう。

また、スポーツ健康科学研究科も 1 月 5 日～1 月 14 日にかけて、博士課程前期および後期の全在学者（休学中および退学予定の 2 名を除く）29 名を対象に FD アンケート調査を実施し、15 名による回答を得た。そこでは、「研究指導満足度」について 90%強が「大変満足」「満足」と回答し、昨年度と同様に肯定的な回答傾向がみられた。「特論満足度」については、「大変満足」「満足」と回答している割合が昨年度より減少して 90%に届かなかったが、他方で「大変満足」の割合が 40%強から 60%に大きく上昇した。この「大変満足」の割合については、2019 年度 20%強、2020 年度 40%強、2021 年度 60%と著しい向上をみせており、年々特論の質が上がっていることが推察される。

8 スポーツ振興・地域連携・社会貢献・高大連携

乾 真寛・小牟礼 育夫・柿山 哲治・田場 昭一郎

■ スポーツ振興・地域連携・社会貢献

1. ミズノ株式会社との協力協定による具体的活動の拡充

- ・受託研究の継続
- ・授業への講師派遣
- ・タペストリーの作成

ミズノ株式会社との協力協定による具体的活動の拡充については、ミズノ株式会社と道下教授との受託研究が実施されて成果をあげて終了した（アクアフィットネスの実施がアスリートのパフォーマンス向上に及ぼす影響）。この受託研究の対象者は、男性大学生アスリート 20 名（介入群 10 名:観察群 10 名）で、アクアフィットネスプログラム 1 回 30 分（期間:11 週間継続）を実施することで、介入群に肩関節、股関節などについて有意な改善が認められた。また、授業への講師派遣の実施については、ミズノ株式会社との連携により、ピークパフォーマンス演習への講師派遣およびオープンキャンパスへの特別講師派遣を実施した。

2. UNIVAS 事業との連携拡充

- ・指導者研修の実施
- ・UNIVAS Awards の表彰
- ・スポーツサポーター養成
- ・正課授業内でのキャリア支援プログラムの継続

2 年次ステップアップセミナーにおいて、UNIVAS とマイナビアスリートキャリア事業部の協力により、オンラインおよび対面授業（キャリア教育・人間力セミナー等々）を計 4 回実施し、学生の関心ある事例や興味深い資料とワーク、意見交換など有意義で好評であった。また UNIVAS CUP においては、上位に進出し UNIVAS AWARD でも個人賞に多数ノミネートされた。

3. 福岡市との連携事業

- ・小中学校の体育授業サポート（新体力テスト活用・仲間づくりなど）
- ・スポーツをテーマとした児童生徒による自由研究のサポート
- ・スロージョギング教室と運動教育の継続

2021 年度も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)やオミクロン変異ウイルス等の影響により、多くの小中学校の体育授業サポートが中止となった。また、2022 年 5 月に福岡で開催される世界水泳選手権水泳競技大会について、福岡市との連携により福岡大学プールが練習会場となる予定であったが次年度に延期となった。このような社会情勢において、現在も福岡県からの要請により「ふくおか健康づくり県民会議」を通してのスロージョギング支援、小学校および教育委員会との連携事業である新体力テスト支援も継続している。また、市外からの要請についても、学生の教育および地域支援として対応できるように検討していく予定である。

さらに、2016年から実施されてきた健康持続社会の現実に向けた福岡大学の研究ブランディング事業“福奏プロジェクト”が5年目となり、スポーツ科学部からは「幼少期～青年期の学校適用支援・活力ある人間形成の研究チーム(チームリーダー:乾真寛)」「中高年期～老年期の社会活動支援・活気ある高齢者の研究チーム(チームリーダー:上原吉就)」が、3月に開催される総合討論会で事業の統括内容を報告する予定である。なお、本年度は連携事業に関連した下記の内容が執筆された。

- ・子どもの脳・神経を目覚めさせる、とっておきコーディネーション運動～メンタルストレス軽減効果の検証～. 神経治療学 38 巻 3 号:240-243(2021)
- ・ICT メディアを活用した幼児および児童向けコーディネーション運動プログラムの普及・実践の試み. 福岡大学スポーツ科学研究 51 巻 2 号:1-5(2021)
- ・軽度一過性コーディネーション運動が小学生児童の心理的反応に及ぼす影響. 福岡大学教職課程センター紀要 6 巻:128-134(2021)

4. 福岡県との連携事業

- ・アクションとの連携強化 (スケート実習・アクアスポーツ実習)
- ・福岡県教育委員会との連携

アクアスポーツ実習については「福岡大学とアクション福岡の教育連携協定」の申請により、2021年8月5日(木)にアクション福岡のプールを借用してダイビング実習を実施する予定であったが、コロナ禍のため中止となった。

スケート実習については「福岡大学とアクション福岡の教育連携協定」の申請により、2022年2月8日(火)～10日(木)まで、アクション福岡スケートリンクでスケート実習を実施する予定であったが、コロナ禍のため中止となった。

福岡県教育委員会との連携については、教育実習事前・事後指導において、2021年4月19日(月)に古賀千絵先生(福岡県教育庁教育振興部社会教育課 指導主事)に「学校と地域との連携」について、12月6日(月)に教育実習事前・事後指導において、藤崎厚志先生(福岡県体育研究所:指導主事)に「体育指導の在り方」について講義を依頼した。また、教職演習Ⅰにおいて、7月27日(火)に藤崎厚志先生(福岡県体育研究所:指導主事)、教職演習Ⅱにおいて山本秀史先生(福岡県立講倫館高等学校:校長)に特別講義を依頼した。

5. エクステンションセンターとの連携

- ・キッズ・スポーツの拡充

各教室・イベントの実施状況については、令和2年度に続き令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開講が予定されていたイベントの多くが中止となった。なお、一部はオンラインで実施され、開講された教室、予定されていた講座、各種イベントの詳細は以下の通りである。

市民カレッジ・スポーツ講座 (キッズ・スポーツ教室)

<前期開催>

- ・キッズ体操教室（中止）
- ・キッズサッカークラブ（中止）
- ・キッズバレーボール教室（中止）

<後期開催>

- ・キッズ体操教室（中止）
- ・キッズサッカークラブ（中止）
- ・キッズ陸上教室（中止）

一般・スポーツ教室

<後期開催>

- ・体づくり運動 正しい姿勢で体の不調を改善しよう！
オンライン（オンデマンド配信）で実施
受講者数:310名（のべ再生回数 5,886件）

- ・福岡大学を知るシリーズ（見てまねる・観て学ぶ）
スポーツ科学を知ってパフォーマンスを向上させよう！
オンライン（リアルタイム配信）で実施
受講者数 32名

次年度は、キッズ体操教室、キッズサッカークラブ、キッズバレーボール教室、キッズ陸上教室、キッズバスケットボール教室に加え、「体づくり運動 正しい姿勢で体の不調を改善しよう！」というテーマでの講座を開講する予定である。

6. 授業支援および事業企画

令和3年度も、福岡市との連携協定に基づく地域・社会貢献活動では教育支援プロジェクトとしてサッカー、水泳、新体力テストを中心とした小学校の授業支援が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受けて、開講を予定していたイベントはほとんど中止となった。なお、予定されていた各種イベントの詳細は以下の通りである。

授業支援（福岡市との連携協定：私立大学研究ブランディング事業）

- ・小学校新体力テスト支援（中止）
場所：那珂小学校、東住吉小学校、塩原小学校
概要：児童の体力の把握と向上を目的とし、地域のスポーツ教育の発展や啓発に貢献する
- ・小学校水泳授業支援（中止）
場所：那珂小学校
概要：水泳の苦手意識を克服して泳ぐ楽しさを伝え、また学生の社会教育の実践力を培う
- ・小学校スノーケリング体験教室（中止）

場所：横手小学校、東住吉小学校

概要：水泳の教育的効果を目的とし、児童の水泳嫌いを克服して泳ぐ楽しさを体感する

- ・小学校サッカー授業支援（中止）

場所：那珂小学校、横手小学校

概要：児童の体力向上を目的とし、専門的指導を通してサッカーの楽しさに触れる

事業企画（協力）

- ・アイランドシティ健康のまちづくり事業（運動指導と体力測定）（中止）

場所：福岡市総合体育館

概要：生活習慣病や認知機能低下で介護リスクの高い高齢者対象の運動プロジェクト

- ・那珂川市との高齢者の運動による健康づくり推進普及連携事業（中止）

場所：那珂川市役所（保健センター）

概要：ニコニコペース運動を活用した健康づくりと体力向上の推進事業

7. その他

- ・福岡大学フットボール・カンファレンス 2021（中止）

場所：第二記念会堂、福岡大学サッカー場

概要：地元サッカー界のレベルアップを目的とした講演会および実技クリニック教室

- ・ふれあいスポーツフェスタ 2020（中止）

場所：福岡大学サッカー場

概要：健常者と障がい者の交流、地域と協力して障がい者スポーツの支援に取り組む

- ・福岡大学招待中学校女子バレーボール大会（中止）

場所：第二記念会堂

概要：大会の中でリーダーシップと技術力向上を図り地域のスポーツ交流を推進する

- ・スロージョギング教室（中止）

場所：身体活動研究所・日本スロージョギング協会のホームページ、YouTube チャンネル

概要：スロージョギングリレーとトークショーに関する動画を配信

- ・福岡少年院のサッカー指導（中止）

場所：福岡少年院グラウンド

概要：在院者を対象に、体育指導の一環としたサッカー部による技術指導と交流

- ・平成外環通りウォーキング大会（中止）

場所：三尾池公園 → ニコニコパーク → 桧原桜公園 → 花畑園芸公園

概要：外環通りの利用促進を目的として市民の健康増進とコミュニティの活性化を図る

■ 高大連携

高大連携事業は、主に福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、スポーツコミュニケーションコースがある福岡県立早良高等学校と行われている。また、令和元年からは福岡

市立四高等学校との連携も始められた。しかし、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に取り組み内容を縮小せざるを得ない状況であった。令和3年度に附属若葉高等学校は共学校としての完成年度を迎え、サッカー部、ハンドボール部、水泳部では強固な連携体制が構築でき、特にサッカー部においては優れた競技実績を残すことができた。

【附属大濠高等学校】

9月 附属大濠高等学校模擬講義（2年生総合的な学習「福大講座」）および福岡市立高校高大連携プログラムにおいて、本学部教員が60分の模擬講義を行なった。

【附属若葉高等学校】

8月 本学部教員が1年生を対象に模擬講義を行なった。

10月 本学部教員が2年生を対象に模擬講義を行なった。

12月 本学部教員が1年生を対象に模擬講義を行なった。

また、複数の部活動において練習等の協力体制が構築されている。

【福岡県立早良高等学校】

近年度、具体的な連携事業は実施できていない。そのため、早良高校との協定は解消し、県下公立体育コース設置校との包括的協定締結を目指す必要があるものとする。

9 国際交流

布目 寛幸・森口 哲史

■ 国際センター関連事業

1. 学部生に対する情報提供
コロナウイルス蔓延のため行われなかった。
2. 国際センタープログラムを活用した交換留学・海外研修
 - ・交換留学；スポーツ科学部 0名
 - ・海外研修；スポーツ科学科 0名、健康運動科学科 0名、計 0名
3. GAP 連携のインターミディエイト・イングリッシュ GE クラスを履修した学生の短期海外研修
 - ・スポーツ科学科；0名、健康運動科学科；0名
4. 福岡大学国際交流チーム（FIT）登録者
2021年度 スポーツ科学部；0名

■ 大学間学術協定 MOU、教員海外研修

1. 大学院スポーツ健康科学研究科と Universiti Teknologi MARA（マレーシア）の間で部門間学術協定が締結された（3月）
2. 2021年度長期在外研究
 - 川中健太郎 教授（研究期間；2022年1月11日から2022年9月10日まで）
英国 Nottingham University（Dr Phil Atherton 研究室）
米国 University of Utah（Dr Katsu Funai 研究室）

■ 留学生関係

1. 外国人留学生数
大学院博士後期課程 0名、博士前期課程 2名、学部留学生 0名
2. 学部留学生入学試験
スポーツ科学部；志願者 1名、合格者 0名、入学者 0名
3. 短期留学生の受け入れ
スポーツ科学部；志願者 0名

■ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

1. アスリート・コーチ育成プログラムによる海外研修
コロナウイルス蔓延のため中止となった。

<スポーツ健康科学研究科と釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流>
コロナウイルス蔓延のため中止となった。

10 教職課程

柿山 哲治・今村 律子

■ 教職課程登録者数（2021年度）

学部	学科	21台	20台	19台	18台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科	176	145	112	88	521
	健康運動科	48	42	36	30	156
合計		214	187	148	118	677

■ 社会教育主事課程科目登録者数（2021年度）

学部	学科	21台	20台	19台	18台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科		0	1	0	1
	健康運動科		1	0	0	1
合計			1	1	0	2

■ 教員免許状取得状況（2021年度）

学部	学科	卒業生	免許状取得者数	免許状取得率
スポーツ科	スポーツ科	208	80	38.5%
	健康運動科	69	28	40.6%
合計		277	108	39.0%

■ 教員免許状（一種・専修）一括申請者数（2021年度）

学部	学科	申請者数	中学校	高等学校	申請件数
			保健体育	保健体育	
一種	スポーツ科	スポーツ科	47	80	127
		健康運動科	18	28	46
	科目履修生		2	1	2
合計		110		110	176

専修	スポーツ健康科学研究科	6	6	6	12
----	-------------	---	---	---	----

■ 教員免許状更新講座

受講希望者が定員に満たなかったため、講座は閉講となった。

■ 教員採用試験合格者数

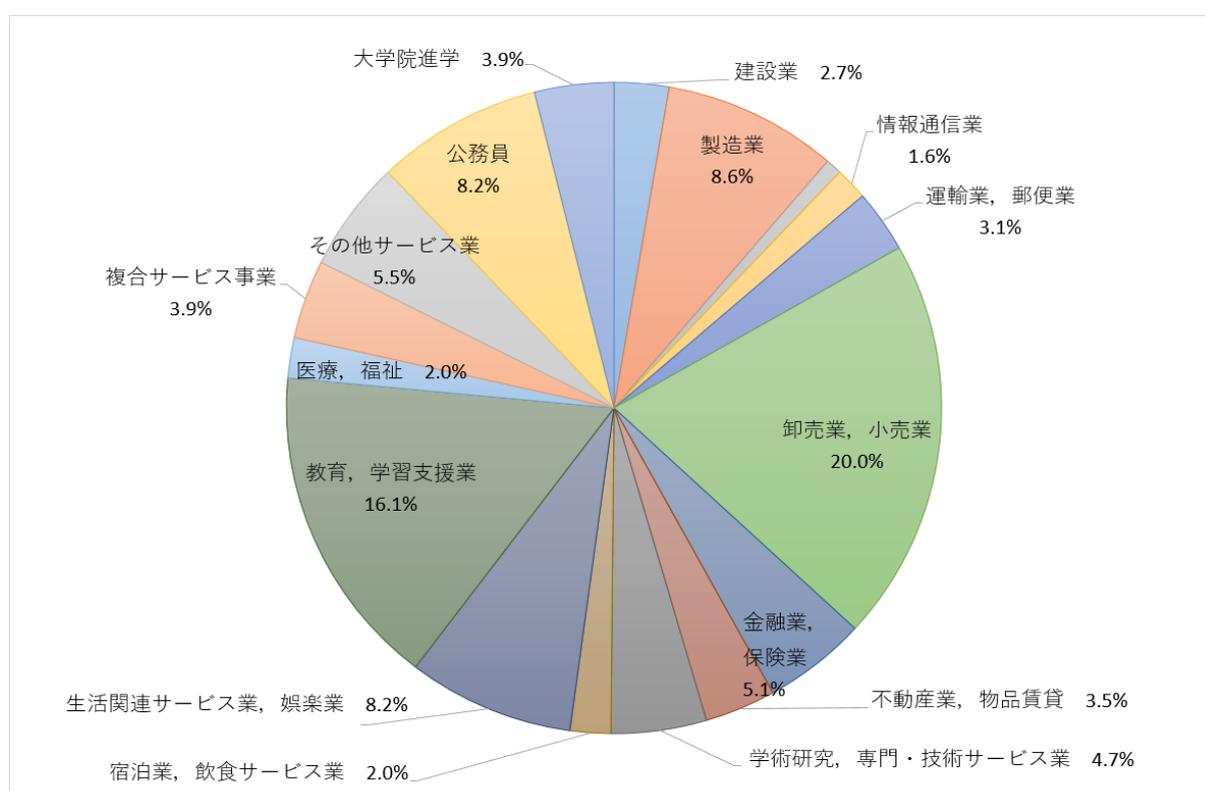
9名<長崎県小学校2名、福岡市中学校3名、福岡県中学校2名、広島県中学校1名、北九州市特別支援学校1名(科目等履修生)>

11 就職・進路

(1) スポーツ科学部

野口 安忠

令和3年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大で企業の採用活動に大きく影響を及ぼしたものと考えられ、全国大卒求人倍率は1.50倍と0.3ポイント低下し（リクルートワークス研究所調べ）、本学に寄せられた求人件数も15,298件と6.5%減少した。ただし、就職率は大学全体で96.1%（0.1%増加）、本学部においても全体で99.2%（0.5%増加）、男子99.4%（同）、女子98.8%（1.4%増加）と昨年度に比べて若干増加した。なお、就職先の業種別内訳（大学院含む）については円グラフに示したとおりである。



令和3年度 スポーツ科学部における就職先の業種別内訳

◇主な就職先

大林道路（株）、（株）九電工、セキスイハイム九州（株）、（株）竹中工務店、アイリスオーヤマ（株）、クリナップ（株）、三浦工業（株）、霧島酒造（株）、リンナイ（株）、パナソニック（株）、トヨタ車体（株）、（株）大分放送、（株）ゼンリン、因幡電機産業（株）、小野建（株）、（株）システナ、ジャパン福岡・ペプシコーラ販売（株）、（株）ゼンショーホールディングス、（株）南陽、阪和工材（株）、（株）エディオン、エフコープ生活協同組合、九州三菱自動車販売（株）、福岡トヨタ自動車（株）、ゼビオ（株）、（株）日本電子、（株）福岡銀行、（株）西日本シティ銀行、（株）佐賀銀行、（株）十八親和銀行、（株）琉球銀行、楽天銀行（株）、住友生命保険相互会社、（株）東急コミュニティー、太陽建機レンタル（株）、（株）レンタルのニッケン、日清医療食品（株）、（株）

サニクリーン九州、(株) Plan・Do・See、総合警備保障(株)、福岡県教員(中学校)、福岡市教員(中学校)、愛媛県庁、佐賀市役所、警視庁、福岡県警察本部、熊本県警察本部、鹿児島県警察本部、東京消防庁、福岡市消防局

(2) スポーツ健康科学研究科

布目 寛幸

前期課程修了者の就職先は、同研究科博士後期課程への進学者(3名)、福岡大学(助教1名 助手1名)、日本経済大学(講師1名)、びわこ成蹊スポーツ大学(助手1名)、福岡市小学校教員(常勤講師2名)、三好内科・循環器内科クリニック(1名)、未定(1名)であった。
後期課程修了者の就職先は、帝京大学(助教1名)、立命館大学(ポストドクター研究員1名)であった。

12 広報推進

小牟礼 育夫・上原 吉就・下園 博信・今村 律子・岡部 奈央

■ 学部ホームページ更新と新規サイトの追加

2021年度、学部ホームページの情報更新作業は、年次更新（「トップ選手を輩出」卒業生と現役学生の確認）、随時更新（TOPICS）が中心となっている。

2021年度 カテゴリー別更新件数（単位：件）*述べ件数

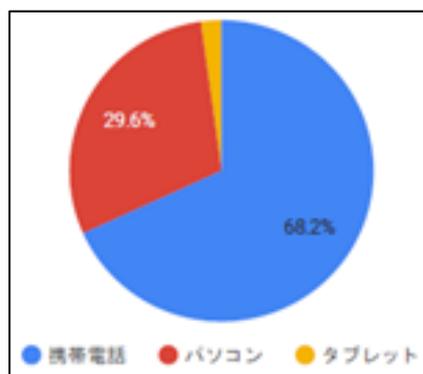
カテゴリー	入試情報	部活動	教育・研究	学生・教員の活躍	お知らせ	試合結果	合計
更新件数	1	2	4	2	13	24	46

アクセス解析ツール（Google アナリティクス）を使用し、本学部サイトのアクセス状況をまとめた。入試情報サイトへのアクセスを目標項目とした場合のアクセス状況、デバイス別アクセスと都道府県別アクセスランキングを下記に示す（2021/4/1～2022/3/31調べ）。



【目標】入試情報サイト到達（スポ科 HP 画面下の入試情報サイトボタンをクリック）

日別アクセスユーザ数と目標完了数



都道府県別アクセスランキング（目標到達順）

都道府県名	ユーザー	新規ユーザー	コンバージョン率
1. 福岡県	15,710	15,231	30.85%
2. 大阪府	7,301	6,754	26.55%
3. 東京都	5,820	5,483	21.81%
4. 神奈川県	3,541	3,286	23.58%
5. 愛知県	1,857	1,736	26.1%
6. null	1,801	1,844	58.23%
7. 熊本県	1,298	1,267	37.48%
8. 広島県	1,272	1,210	38.99%
9. 長崎県	1,063	1,036	43.51%
10. 佐賀県	913	885	43.4%

学部紹介動画が完成し（ロングバージョン・ショートバージョン）の掲載から、動画掲載サイト「動画でみるスポーツ科学部」を作成した。今後は、実習や授業等の動画などを掲載し、大学生活の様子などを発信する予定である。

■ 大学院スポーツ健康科学研究科ホームページ更新

随時更新（TOPICS）では、行事・イベント、学会発表、論文発表・論文掲載、研究会開催、大学院生の取り組み、その他、教員の活躍などのカテゴリーが設定されている。大学院の紹介動画も掲載し、今後も引き続き学部との連携を図る。

■ 入試広報活動ーオープンキャンパスリアルタイム配信

2021年8月7日（土）に、LIVE配信（Youtube使用）で、模擬講義や施設紹介を行った。新プール、サッカー場、総合体育館、第二記念会堂など、実際には一度に見学できない場所にあるため、効果的であったと思われる。また、部活動の様子や教員採用試験対策の様子や学生のインタビューなどもリアルタイムに配信することができた。

Youtube チャンネル登録

	視聴回数	総再生時間（時間）	平均視聴時間（時間）
合計	1504	418.037	0：16：40
未登録	1459	408.0615	0：16：46
チャンネル登録済み	45	9.9755	0：13：18

Youtube デバイス

	視聴回数	総再生時間（時間）	平均視聴時間（時間）
合計	1504	418.037	0：16：40
携帯電話	992	156.9311	0：09：29
パソコン	394	194.017	0：29：32
タブレット	86	43.5211	0：30：21
テレビ	31	20.7375	0：40：08
ゲーム機	1	2.8303	2：49：49

■ 学部広告掲載一覧

日本体育・スポーツ・健康学会 第71回大会	2021年9月7日（火）～9月9日（木）開催 <主管校：筑波大学>	A4 白黒1ページ
-----------------------	--------------------------------------	-----------

13 外部獲得資金実績

道下 竜馬

科学研究費 (R3年度)		(含間接経費)	
研究種目	代表者名	研究課題	金額 (円)
基盤研究 (B)	檜垣 靖樹	エピジェネティック修飾による運動適応機構の解明	4,680,000
基盤研究 (B)	川中 健太郎	除脂肪量増加に有効な食事処方に関する基礎的研究	3,770,000
基盤研究 (B)	上原 吉就	運動による骨格筋高比重リポ蛋白 (HDL) 産生 システム の発動とその作用解明	3,770,000
基盤研究 (B)	道下 竜馬	「時間運動学」に基づいた疾病予防や改善のために有効な運動プログラムの開発	4,550,000
基盤研究 (C)	柿山 哲治	バスケットボール移入史の再構築	1,560,000
挑戦的研究 (開拓)	檜垣 靖樹	身体運動とうま味で奏でる スポーツと健康の価値の創造	6,890,000
挑戦的研究 (萌芽)	川中 健太郎	不活動由来に増加してインスリン抵抗性を惹起する筋細胞内メッセンジャーの探索	3,120,000
若手研究	古瀬 裕次郎	地域高齢者の認知症及び認知機能低下リスク要因の検討 -10年前向きコホート研究-	780,000
若手研究	西田 智	スポーツ現場で有用なハムストリング肉離れ重症度評価法の検討	1,040,000
若手研究	木戸 康平	単回レジスタンス運動でインスリン感受性を改善するために -分子制御からのアプローチ	1,430,000
研究活動スタート支援	川上 翔太郎	腎臓への負担を最小限に抑える最適な運動時間の探索 -腎血行動態に着目して-	1,430,000

受託研究 (R3年度)

依頼者	研究代表者	研究課題	金額 (円)
美津濃 (株)	道下 竜馬	水中トレーニングプログラムおよび製品の効果に関する研究	1,131,889
中村学園大学	道下 竜馬	メタボリック症候群の個々人の心音に基づく運動アドバイスシー トの開発	9,000

共同研究 (R3年度)

依頼者	研究代表者	研究課題	金額 (円)
美津濃 (株)	上原 吉就	温熱とリカバリの関係解明に関する共同研究等	4,994,133
フジッコ (株)	檜垣 靖樹	大豆たんぱく質摂取と運動の併用がマウス骨格筋に与える影響	2,000,000
旭化成 (株)	上原 吉就	ウェアラブルデバイスを用いた運動強度評価に関する研究	0
ヨネックス (株)	布目 寛幸	新たなスポーツ用具の製品評価基準の確立に関する研究	1,300,000

研究助成寄附金 (R3年度)

機関名	研究代表者	研究課題	金額 (円)
第一三共 (株)	上原 吉就	研究助成のため	500,000
アミカス・セラピュー ティクス (株)	上原 吉就	研究助成のため	500,000
大日本住友製薬 (株)	上原 吉就	研究助成のため	300,000

14 リスクマネジメント委員会

乾 眞寛・日高 英史

学部に「リスクマネジメント委員会」が設置されてきた経緯は、2012年12月の女子指定寮「あしかり荘」の火災事故により、本学部生1名が死亡する痛ましい出来事がきっかけであったと記憶している。私自身は当時学生部委員でもあり、被害者学生やご家族、関係する運動部学生の聞き取り調査や心のケア、賠償問題、再発防止策、報告書作成など長期間にわたり非常にデリケートな問題に対処した。その際、学部に事件・事故・災害等に対して緊急を要する判断や迅速な初期対応する委員会が必要であるという認識から2013年度から学部に「リスクマネジメント委員会」が設置された。

その後は、2016年の熊本地震の際の安否確認や被災学生の調査などを行ってきた。

2020年度は、年度当初から新型コロナウイルスへの学部対応が求められ、過去に経験したことのない状況下で、学部の教職員、学生、そのご家族の安全・安心、生命を守るために学部長、日高事務室長と共にコロナ対策の最前線で情報収集と感染対策管理、陽性者情報の確認と対応策の検討、学生課・保健所との連絡など、スピード感を持って具体的な判断を行い関係各部署に連絡を取り、連携して問題解決を実行していくことが求められた。

また、前期の実技対面授業(水泳)の再開に向けての学部全体の支援、協力体制づくりや安全マニュアル、健康チェック、感染防止のための手順(プロトコル)作成と徹底を呼びかけ、実践して頂いた。

<2021年度の主な検討事項>

(1) スキー実習の中止

2021年12月末の時点では実習開催可能かという判断もあり、実習の再開に向けて準備は進められたが、2022年1月に入り、急速な感染者の増加傾向と新型オミクロン株の特徴などを考慮し実習の中止を決断した。

(2) スケート実習の中止

2022年、実習場所をアクション福岡に移してスケート実習の再開を目指し、藤井主任を中心に何度もミーティング・ガイダンスを行い準備に務めたが、市内交通機関を用いての早朝の移動が必要であり、感染リスクの高さから判断し中止を決定した。

(3) ピークパフォーマンス演習Ⅱ

海外国内のスポーツトップクラスのチーム・団体へのスポーツ実技研修についても、海外渡航制限、国内旅行・移動の制限、まん延防止措置発令などを考慮し学外研修を中止した。

(4) 入試対策

一般入試、前期・後期・特別募集にも細心の注意を払い、入試での感染対策について入試委員と密接に協議し対応策を検討した。

No	日付	開始時刻	議題
1	令和3年 5月6日	16時 30分 ～	1 4月30日(金) スポーツ科学部3年生(柔道部)1名の陽性者への対応 2 今後のスポーツ科学部の対応について 3 5月10日(月)以降遠隔授業に切り替わった場合の対応について
2	令和3年 5月18日	16時 30分 ～	1 学外実習参加申請書について 2 5月18日(火)までのスポーツ科学部生関連の陽性者、濃厚接触者、感染者、クラブ関係の自宅待機者について 3 クラブ活動のステージ引き上げについて
3	令和3年 5月19日	16時 30分 ～	4 スポーツ科学部の専門授業科目について 5 その他 ①パルスオキシメーターについて
4	令和3年 5月28日	16時 00分 ～	1 6月1日(火)以降のスポーツ科学部の専門授業科目について 2 トレーニング室の使用について 3 第二記念会堂のクラブ活動の活動延長時間について 4 大会等による第二記念会堂借用のガイドライン(2021年2月)
5	令和3年 8月5日	17時 00分 ～	1 授業に関する陽性者などの状況(5名) 2 ゴルフ実習における対応について 3 今後の実習などの対応について(アクアスポーツ、キャンプ・キャンプⅠ・キャンプⅡ) 4 緊急事態宣言が出た場合の対応
6	令和3年 8月17日	14時 00分 ～	1 夏休み期間中の感染者の確認 ①ゴルフ実習関係 ②フィットネス実習関係(報告済) ③クラブ関係 2 夏休み期間中の実習について ①キャンプ実習 ②アクアスポーツ実習 3 スポーツ科学部の学生が陽性になった場合の濃厚接触者の指定 ①クラブ活動における感染者について ②スポーツ科学部の授業において、対面で行う実習、演習、講義科目について 陽性者が出た場合の濃厚接触者の指定 4 9月1日(水)の教授会における周知事項 5 第二記念会堂について

			<ul style="list-style-type: none"> ①学会、講習会、会議などで教室などを貸出す場合について ②大会などで貸出す場合について ③トレーニング室について
7	令和4年 1月7日	12時 15分 ～	<ul style="list-style-type: none"> 1 スキー実習の可否について 2 スケート実習の可否に関する日程
8	令和4年 1月11日	8時 15分 ～	<ul style="list-style-type: none"> 1 陽性者（GS20台）の状況確認と対応について <ul style="list-style-type: none"> ①授業について ②クラブ活動について
9	令和4年 1月14日	15時 00分 ～	<ul style="list-style-type: none"> 1 スケート実習の可否について 2 令和4年度 スキー実習について 3 1月13日（木）、14日（金）の感染状況の確認
10	令和4年 1月17日	12時 15分 ～	令和4年1月14日（金）以降の感染者・濃厚接触者（11名）とその対応について
11	令和4年 2月2日	16 : 00～ 16 : 17	<ul style="list-style-type: none"> 1 これまでの感染状況について 2 スポーツ科学部 実技試験に対する対応（入試） <ul style="list-style-type: none"> ①受験者の体調不良調査について（入試前） ②試験中の受験者への対応（試験中） ③試験監督者の対応（試験前、試験期間中） ④試験終了後の対応

15 関連資料一覧

- | |
|--|
| |
|--|
- ※ 福岡大学 大学案内
 - ※ 福岡大学スポーツ科学部 学部ガイド
 - ※ 福岡大学入試ガイド
 - ※ 福岡大学要覧

 - ※ 福岡大学スポーツ科学研究

 - ※ 教育開発支援機構年報

 - ※ 福岡大学研究推進部年報

 - ※ 福岡大学スポーツ科学部卒業論文抄録集（令和3年度）

 - ※ 教育実習報告書
 - ※ 教職事前実習報告書

 - ※ 大学生のスポーツと健康生活（大修館書店）

福岡大学
スポーツ科学部 大学院スポーツ健康科学研究科 年報
令和三年度（2021）第7号

発行日 令和4年6月発行
編集者 学部年報編集委員会
田口晴康 森口哲史 今村律子
発行者 福岡大学スポーツ科学部
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1
TEL : 092-871-6631(代) FAX : 092-865-6029

